

科目名	保育内容の指導法（環境）		
担当教員名	宮崎 信子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼稚園教諭免許状、保育士資格取得のための必修科目。保育における「環境」の重要性を理解する。

科目の概要

乳幼児期の発達を踏まえ、保育における『環境』との豊かなかかわりを育むための、幼児の視点にたった指導内容と援助の在り方について学習する。

学修目標（＝到達目標）

- ・幼稚園教育要領、保育所保育指針「環境」のねらいと内容を理解する。
- ・乳幼児期の環境とのかかわりと、それに伴う諸側面の発達について理解する。
- ・保育実践における保育内容「環境」の在り方を理解する。

内容

1	幼児教育・保育における「環境」の概念
2	子どもの発達と環境
3	子どもと植物とのかかわり
4	子どもと生き物とのかかわり
5	子どもと自然現象とのかかわり
6	園外保育の実際
7	子どもと物とのかかわり
8	子どもと文字や記号とのかかわり
9	子どもと数量・図形とのかかわり
10	子どもと土・砂・水とのかかわり
11	子どもと地域社会とのかかわり
12	子どもと日本の伝統文化・行事とのかかわり
13	領域「環境」と保育方法
14	領域「環境」と保育の実際
15	まとめ

評価

授業の参加度 15%、授業時の発表・課題 45%、期末レポート 40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】幼稚園教育要領・保育所保育指針「環境」を読んでおく。

翌授業の演習に必要なものを各自準備する。

【事後学修】授業を振り返り、理解できたことや今後に生かせる内容などを復習する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

- 【参考図書】
- ・幼稚園教育要領解説 文部科学省 フレーベル館
 - ・保育所保育指針 厚生労働省 フレーベル館

科目名	教育課程論		
担当教員名	狩野 浩二、津吹 卓		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

この科目は、教育職員免許法に定められた「教育課程及び指導法に関する科目」のうち、もっとも最初に掲げられている「教育課程の意義及び編成の方法」について学修します。

小学校教員を目指すみなさんが2年生後期に受講し、これから勉強していく各教科（国語・算数など）、領域（道徳・特別活動など）等の指導法に関する科目がそれぞれどのように影響し合い、子どもたちの学習経験を実際に創りあげていくのかを考えることとなります。1年生で学習する「教育学概論」「教職入門」に引き続き学ぶ科目です。このあとは、この科目の学習を生かして、各科目ごとの「小学校教科教育科目」「教育実習」を学んでいくこととなります。

各学校ごとに編成される教育課程の意味がわかること、教育課程と授業との関わりについての意味がわかること、教育課程と児童の学習に関する基礎理論を理解すること、がねらいです。

内容

以下、取り上げる内容について列記します（順不同）。

1. これからの時代における教育課程
2. 教育の目的と方法
3. 教育方法の基礎理論
4. 学習理論の展開
5. 問題解決学習の方法
6. 学習形態と学習指導
7. 教育課程の編成
8. 学習指導要領と教育課程
9. 学習指導要領の変遷
10. 生活科と理科における内容構成
11. 現行学習指導要領の特徴
12. 生活科と社会科における内容構成
13. 授業における教師の課題 ゆさぶり
14. 授業における教師の課題 誤答
15. まとめ

評価

班別発表（20点）と学修票（80点、毎授業時に作成）を総合して評価します。

授業外学習

【事前予習】テキストの該当章を予め読み、概要をまとめ、疑問点を整理し、講義に持参します。

【事後学修】班発表の内容や班討論の内容を整理し、予習と引き比べながら振り返りレポートを作成します。次回の講義の

際、持参します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト（教科書）】松田稔樹,星野敦子,狩野浩二,津吹卓『自ら学び考える教職教養 教育課程・制度・法規』学文社、その他配付資料を使います。

【推薦書】斎藤喜博『授業の展開（新装判）』国土社

横須賀薫『授業の深さをはかるもの』教育出版

箱石泰和編『授業 = 子どもとともに探求する旅』教育出版

【参考図書】横須賀薫編『授業研究用語辞典』教育出版 他、教室で随時紹介します。

科目名	初等国語科教育		
担当教員名	富山 哲也		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

小学校教諭一種免許状，幼稚園教諭一種免許状を取得するための必須科目である。

科目の概要

小学校学習指導要領に基づき，「国語科」の目標と内容について理解する。「話すこと・聞くこと」「書くこと」については，指導内容と活動とを結び付けて学ぶ。「読むこと」については，教材研究，学習指導案の作成を行う。また，新学習指導要領で各教科を通じて重視されている「言語活動」について，その背景と，授業づくりへの生かし方について学ぶ。

学修目標（＝到達目標）

「国語科」の学習内容に関心をもち，積極的に授業づくりについて考えようとする。
 学習指導要領の内容と教材・題材を結び付けて，簡単な学習指導案を作成する。
 学習指導要領国語の目標と内容について，基礎的な知識を身に付ける。

内容

1	ガイダンス～子どもの学力の状況，今，求められる学力と教育の動向～
2	教育課程における国語科の位置，学習指導要領の理解
3	今，求められる国語科の授業の構想
4	年間指導計画の作成と学習指導案の在り方
5	「話すこと・聞くこと」領域の内容と指導
6	「書くこと」領域の内容と指導
7	「読むこと」領域の内容と指導（説明的な文章）
8	「読むこと」領域の内容と指導（文学的な文章）
9	〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の内容と指導
10	教材研究と教材・教具（教科書，副教材，ノート，ワークシート，ICTの活用等）
11	国語科における学習評価（評価と評定，指導と評価の一体化）
12	学校図書館，読書活動の位置
13	PISA調査と「PISA型読解力」
14	全国学力・学習状況調査
15	これからの国語科教育の在り方～振り返りとまとめ～

評価

毎回の小レポート30%，演習や討論等への参加状況30%，最終的な論述レポート40%とし，総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】課題により事前準備を必要とするものがある。

【事後学修】講義の後に、小レポートの提出を求める。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『小学校学習指導要領解説 国語編 平成20年9月』東洋館出版社

【推薦書】『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料【小学校国語】平成23年11月』教育出版

【参考図書】教室で紹介する

科目名	初等算数科教育		
担当教員名	増田 吉史、日出間 均		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

「算数」の上に立ち、小学校算数科の目標、内容、指導方法等を理解することにねらいを置く。

科目の概要

小学校算数科の学びの基本や、その内容や方法を、「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」の4領域で考察していく。児童の主體的な学びを促す指導法のあり方を理解し、教材の内容の分析、指導法の工夫等での優れた実践を参考に指導計画を作成し、授業のあり方を考える。

学修目標（=到達目標）

講義科目ではあるが、実際に指導計画や指導案を作成し模擬授業を行ない、その模擬授業に対し指導を行い、学生による相互評価も取り入れる。よって指導計画や指導案の作成、模擬授業を実施することも目標として追加される。

なお習熟度（学生の意志）により2クラスの少人数指導を取り入れる。ただし目標と評価は一とする。

内容

1	算数科指導のポイント
2	小学校1年生（数と計算、量と測定）の指導計画、指導案、その模擬授業
3	小学校1年生（図形、数量関係、算数的活動）の指導計画、指導案、その模擬授業
4	小学校2年生（数と計算、量と測定）の指導計画、指導案、その模擬授業
5	小学校2年生（図形、数量関係、算数的活動）の指導計画、指導案、その模擬授業
6	小学校3年生（数と計算、量と測定）の指導計画、指導案、その模擬授業
7	小学校3年生（図形、数量関係、算数的活動）の指導計画、指導案、その模擬授業
8	小学校4年生（数と計算、量と測定）の指導計画、指導案、その模擬授業
9	小学校4年生（図形、数量関係、算数的活動）の指導計画、指導案、その模擬授業
10	小学校5年生（数と計算、量と測定）の指導計画、指導案、その模擬授業
11	小学校5年生（図形、数量関係、算数的活動）の指導計画、指導案、その模擬授業
12	小学校6年生（数と計算、量と測定）の指導計画、指導案、その模擬授業
13	小学校6年生（図形、数量関係、算数的活動）の指導計画、指導案、その模擬授業
14	数学的思考力育成と問題解決力育成のための授業改善
15	振り返りとまとめ

評価

指導計画、学習指導案、模擬授業（80%）、試験（20%）で評価。60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】

指導計画の作成、指導案の作成を行う

【事後学修】

授業評価と改善点の確認を行う

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

小学校学習指導要領解説算数編 文科省著（東洋館出版社）

【推薦書】

学力向上フロンティアスクールの実践 10 「算数科コース別指導による確かな学び
4 - 6 年実践編」明治図書

【参考図書】

なし

科目名	初等理科教育		
担当教員名	津吹 卓、井口 磯夫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* ,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

必修科目であり、2年の理科の発展である。

科目の概要

理科を教えるとはどういうことなのかを、「実験の模擬授業」を通して体験を通して学ぶ。小学校の理科の実験を班で選び、授業案・ワークシート作成、予備実験を行ない授業の組み立てを考える。終了した後、他の学生からの模擬授業に対する意見、ワークシートに書かれた理科および授業に対するコメントを基に、模擬授業の準備から終了までの全体を振り返って考察し、レポートを作成する。

学修目標（=到達目標）

一連の活動を通して体験的に学び考え、授業とは何かに気づき自分の授業のレベルアップを図る。理科の授業、とくに実験では予想外のことが起きるのが普通である。その状態を体験しながら、理科とは、そして子どもに教えるとはどういうことなのかに気づき、今まで思っていたことから脱皮し、自分の意識改革を行なう。

内容

全部の班がそれぞれ異なる実験で教員担当になり、他の学生を対象にして模擬授業を行なう。授業時間以前の授業の準備と、授業終了の後のまとめ・考察をベースに成り立つ授業である。

1	講義の主旨を説明し、班で行なう実験テーマを話し合う
2	話し合いによる班で担当する実験の調整、決定；理科の実験・観察を1つ
3	講義：理科と教員・教育について
4	実験の模擬授業
5	実験の模擬授業
6	実験の模擬授業
7	実験の模擬授業
8	実験の模擬授業
9	実験の模擬授業
10	実験の模擬授業
11	実験の模擬授業
12	実験の模擬授業
13	実験の模擬授業
14	実験の模擬授業

評価

実験毎のワークシート50%，担当した模擬授業のレポート20%，筆記試験30%とし，総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】授業案作成・予備実験・ワークシート作成から授業を構成する。

【事後学修】ワークシート記入・レポート作成・お互いの授業から授業の意識を深める。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

【推薦書】特になし

【参考図書】文部科学省 小学校学習指導要領解説 理科編，理科の教科書および指導書

科目名	初等理科教育		
担当教員名	津吹 卓、井口 磯夫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

必修科目であり、2年の理科の発展である。

科目の概要

理科を教えるとはどういうことなのかを、「実験の模擬授業」を通して体験を通して学ぶ。小学校の理科の実験を班で選び、授業案・ワークシート作成、予備実験を行ない授業の組み立てを考える。終了した後、他の学生からの模擬授業に対する意見、ワークシートに書かれた理科および授業に対するコメントを基に、模擬授業の準備から終了までの全体を振り返って考察し、レポートを作成する。

学修目標 (= 到達目標)

一連の活動を通して体験的に学び考え、授業とは何かに気づき自分の授業のレベルアップを図る。理科の授業、とくに実験では予想外のことが起きるのが普通である。その状態を体験しながら、理科とは、そして子どもに教えるとはどういうことなのかに気づき、今まで思っていたことから脱皮し、自分の意識改革を行なう。

内容

全部の班がそれぞれ異なる実験で教員担当になり、他の学生を対象にして模擬授業を行なう。授業時間以前の授業の準備と、授業終了の後のまとめ・考察をベースに成り立つ授業である。

1	講義の主旨を説明し、班で行なう実験テーマを話し合う
2	話し合いによる班で担当する実験の調整、決定；理科の実験・観察を1つ
3	講義：理科と教員・教育について
4	実験の模擬授業
5	実験の模擬授業
6	実験の模擬授業
7	実験の模擬授業
8	実験の模擬授業
9	実験の模擬授業
10	実験の模擬授業
11	実験の模擬授業
12	実験の模擬授業
13	実験の模擬授業
14	実験の模擬授業

評価

実験毎のワークシート50%，担当した模擬授業のレポート20%，筆記試験30%とし，総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】授業案作成・予備実験・ワークシート作成から授業を構成する。

【事後学修】ワークシート記入・レポート作成・お互いの授業から授業の意識を深める。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

【推薦書】特になし

【参考図書】文部科学省 小学校学習指導要領解説 理科編，理科の教科書および指導書

科目名	初等体育科教育		
担当教員名	山本 悟		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

小学校教諭の免許を取得するために必要となる必修科目で、体育科の授業づくりの基本を学ぶとともに、児童期の身体的な発育発達および運動技能の獲得に関する基礎知識を習得する科目である。1年次前期履修の「人間と運動」、2年後期に設定されている「体育」とも関連性が深い。

科目の概要

小学校学習指導要解を基盤にして、体育が取り扱う学習内容の理解と授業づくりの要点および授業運営に関する指導技術を学ぶことを中心とする。さらに、学習指導案（略案）作成の基本を学修させる。実際の授業では、題材とする運動を身体感覚で理解することを重視するため、実技を交えて活動を展開したり、受講生が指導役を担う模擬授業を実施する。

学修目標

小学校における体育科の授業づくりに関する基本的な知識・内容および指導技術について、講義や演習を通して理解・習得することをねらいとする。

内容

1	オリエンテーション：班づくり、よい体育授業を映像から学ぶ（その1）
2	体育科の授業づくり（小学校体育科の目標・内容・その取扱いについて）
3	体育科の授業づくり（授業の流れと授業運営委、教材づくりの基本を学ぶ）
4	保健内容の解説とポスター発表の準備活動、よい体育授業を映像から学ぶ（その2）
5	保健内容ポスター発表（その1）
6	保健内容ポスター発表（その2）
7	運動領域別の指導法：器械運動、体づくり運動
8	運動領域別の指導法：ボール運動（プレルボール）、なわとび運動
9	運動領域別の指導法：陸上運動、鉄棒運動
10	保健内容のポスター発表（その3）、模擬授業の進め方と解説について
11	指導案作成のまとめ、授業観察の方法の理解（授業評価を含む）
12	模擬授業
13	模擬授業
14	模擬授業
15	まとめ

評価

発表活動30点、レポート30点、試験30点、通常の授業への取り組み（意欲、関心）10点による評価を行い、60

点以上を合格とする。また、合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の講読。プレゼン活動の準備と発表資料作成。

【事後学修】授業ノートおよび配付資料の整理。授業で紹介した推薦書の自主的講読。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 文部科学省 「小学校学習指導要領解説 体育編」 東洋館出版社（平成20年度）

小学校教科書 「新版 小学ほけん けんこうってすばらしい 3・4年

」 光文書院 「新版 小学保健 見つめよう健康 5・6年」 光文書院

【推薦書】 高橋健夫、他編著 「新版 体育科教育学入門」 大修館書店

科目名	初等体育科教育		
担当教員名	山本 悟		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

小学校教諭の免許を取得するために必要となる必修科目で、体育科の授業づくりの基本を学ぶとともに、児童期の身体的な発育発達および運動技能の獲得に関する基礎知識を習得する科目である。1年次前期履修の「人間と運動」、2年後期に設定されている「体育」とも関連性が深い。

科目の概要

小学校学習指導要解を基盤にして、体育が取り扱う学習内容の理解と授業づくりの要点および授業運営に関する指導技術を学ぶことを中心とする。さらに、学習指導案（略案）作成の基本を学修させる。実際の授業では、題材とする運動を身体感覚で理解することを重視するため、実技を交えて活動を展開したり、受講生が指導役を担う模擬授業を実施する。

学修目標

小学校における体育科の授業づくりに関する基本的な知識・内容および指導技術について、講義や演習を通して理解・習得することをねらいとする。

内容

1	オリエンテーション：班づくり、よい体育授業を映像から学ぶ（その1）
2	体育科の授業づくり（小学校体育科の目標・内容・その取扱いについて）
3	体育科の授業づくり（授業の流れと授業運営委、教材づくりの基本を学ぶ）
4	保健内容の解説とポスター発表の準備活動、よい体育授業を映像から学ぶ（その2）
5	保健内容ポスター発表（その1）
6	保健内容ポスター発表（その2）
7	運動領域別の指導法：器械運動、体づくり運動
8	運動領域別の指導法：ボール運動（プレルボール）、なわとび運動
9	運動領域別の指導法：陸上運動、鉄棒運動
10	保健内容のポスター発表（その3）、模擬授業の進め方と解説について
11	指導案作成のまとめ、授業観察の方法の理解（授業評価を含む）
12	模擬授業
13	模擬授業
14	模擬授業
15	まとめ

評価

発表活動30点、レポート30点、試験30点、通常の授業への取り組み（意欲、関心）10点による評価を行い、60

点以上を合格とする。また、合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の講読。プレゼン活動の準備と発表資料作成。

【事後学修】授業ノートおよび配付資料の整理。授業で紹介した推薦書の自主的講読。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 文部科学省 「小学校学習指導要領解説 体育編」 東洋館出版社（平成20年度）

小学校教科書 「新版 小学ほけん けんこうってすばらしい 3・4年

」 光文書院 「新版 小学保健 見つめよう健康 5・6年」 光文書院

【推薦書】 高橋健夫、他編著 「新版 体育科教育学入門」 大修館書店

科目名	初等音楽科教育		
担当教員名	清水 玲子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童期における音楽教育の必要性・大切さを理解した上で、初等教育者に必要な音楽科の教育内容・教材・指導法などについて学ぶことを目的とする。

科目の概要

小学校学習指導要解を基盤として、特に音楽の歴史・理論・表現を中心に音楽担当教育者として必要な基礎知識の修得と、具体的な指導の場面で実践的な力を身につける。

学修目標

それらの知識を生かして、小学校における音楽科の授業づくりに関する基本的な知識・内容および指導技術について講義や演習を通して理解・学習することをねらいとし、教育の指導力をたかめることを目指す。

内容	
1	音楽教育とは？
2	小学校学習指導要領 音楽について
3	音楽の歴史
4	1年生の音楽 歌唱指導 音楽理論 (譜表・派生音について)
5	1年生の音楽 楽器・鑑賞指導 音楽理論 (和音について)
6	2年生の音楽 歌唱指導 音楽理論 (音程について)
7	2年生の音楽 楽器・鑑賞指導 音楽理論 (調について)
8	3年生の音楽 歌唱指導 音楽理論 (発想記号について)
9	3年生の音楽 楽器 (リコーダー)
10	4年生・5年生の音楽 歌唱指導
11	6年生の音楽 歌唱指導
12	中学年の合奏指導
13	高学年の合奏指導
14	中・高学年の鑑賞指導
15	まとめ

評価

毎回の課題 (40点)、試験 (50点)、通常の授業態度 (10点) により評価を行い、60点以上を合格とする。
合格点に満たなかった場合は「再試験」を行う。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の購読。小学校教科書の指定箇所のプレゼン活動の準備。

【事後学修】授業ノートおよび配布資料の整理。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[テキスト] 小学校「音楽」の1年生～6年生の教科書 教育芸術出版

[参考図書] 「音楽科指導書 音楽編」（文部科学省） 「初等科音楽教育法」（音楽の友社）

科目名	初等図画工作科教育		
担当教員名	宮野 周		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

図画工作科の意義と役割について理解を深め、図画工作科教育に関する基礎的知識及び実践的技能を身につけることを目標とする。図画工作科の教科としての性格、及び学習指導要領における目標・内容、指導計画の作成などについて理解を深めるとともに、教科の指導に必要な基礎的な技能を養う。

内容

なお、天候状況などによって順番を変更しておこなうこともある。

1	オリエンテーション
2	美術教育の目的と性格
3	子どもの発達と造形表現
4	図画工作科の歴史的な変遷、図画工作科の目標及び内容
5	図画工作科の授業 (1) 造形遊び
6	図画工作科の授業 (2) 絵や立体、工作に表す活動
7	図画工作科の授業 (3) 絵や立体、工作に表す活動
8	図画工作科の授業 (4) 絵や立体、工作に表す活動
9	図画工作科の授業 (5) 紙版画
10	図画工作科の授業 (6) 木版画
11	図画工作科の授業 (7) 木版画
12	図画工作科の授業 (8) 木版画
13	図画工作科の授業 (9) 木工作演習2 : のこぎり・糸のこ
14	図画工作科の授業 (10) 木工作演習2 : のこぎり・糸のこ
15	図画工作科における評価・授業づくりと学習指導について

評価

授業を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料などをもとに加え、自分自身のポートフォリオを作成する (60点) 。

また活動への取り組み、学習態度、作品の提出 (40点) とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】実技も含めた授業内容となるため、各自、必要な身支度、道具・材料を準備すること (適宜・指示します) 。

【事後学修】教科書等を参考に授業を通して体験したことを専用のスケッチブックにまとめ理解を深めること。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

〔教科書〕

・文部科学省『小学校学習指導要領解説 図画工作編』日本文教出版

・磯部錦司『造形表現・図画工作』建帛社

〔推薦書〕

・福田隆真・茂木一司・福本謹一『改訂 美術科教育の基礎知識』建帛社

・大橋功『美術教育概論』日本文教出版

科目名	初等図画工作科教育		
担当教員名	宮野 周		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

図画工作科の意義と役割について理解を深め、図画工作科教育に関する基礎的知識及び実践的スキルを身につけることを目標とする。図画工作科の教科としての性格、及び学習指導要領における目標・内容、指導計画の作成などについて理解を深めるとともに、教科の指導に必要な基礎的なスキルを養う。

内容

なお、天候状況などによって順番を変更しておこなうこともある。

1	オリエンテーション
2	美術教育の目的と性格
3	子どもの発達と造形表現
4	図画工作科の歴史的な変遷、図画工作科の目標及び内容
5	図画工作科の授業 (1) 造形遊び
6	図画工作科の授業 (2) 絵や立体、工作に表す活動
7	図画工作科の授業 (3) 絵や立体、工作に表す活動
8	図画工作科の授業 (4) 絵や立体、工作に表す活動
9	図画工作科の授業 (5) 紙版画
10	図画工作科の授業 (6) 木版画
11	図画工作科の授業 (7) 木版画
12	図画工作科の授業 (8) 木版画
13	図画工作科の授業 (9) 木工作演習2 : のこぎり・糸のこ
14	図画工作科の授業 (10) 木工作演習2 : のこぎり・糸のこ
15	図画工作科における評価・授業づくりと学習指導について

評価

授業を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料などをもとに加え、自分自身のポートフォリオを作成する (60点)。

また活動への取り組み、学習態度、作品の提出 (40点) とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】実技も含めた授業内容となるため、各自、必要な身支度、道具・材料を準備すること (適宜・指示します)。

【事後学修】教科書等を参考に授業を通して体験したことを専用のスケッチブックにまとめ理解を深めること。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

〔教科書〕

・文部科学省『小学校学習指導要領解説 図画工作編』日本文教出版

・磯部錦司『造形表現・図画工作』建帛社

〔推薦書〕

・福田隆真・茂木一司・福本謹一『改訂 美術科教育の基礎知識』建帛社

・大橋功『美術教育概論』日本文教出版

科目名	初等社会科教育		
担当教員名	廣坂 多美子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、小学校教諭免許取得のための教科指導法の1つで、選択必修に位置づけられている。

教科としてどのような目標を持ち、社会科の各学年の内容をどのような順にどのような指導方法によって教科指導を進めるのか、その指導法について学修する科目である。

科目の概要

小学校社会科の教材を取り上げ、学生自らが探究し、それらの内容をどのようなねらいを持ち、どのように児童に学習させていくか、教材を作成し、教材の在り方・資料の取り扱い等について検討し深める。

学修目標

社会科の目標、各学年の目標・内容・取り扱い等についての理解を深め、授業実践に取り組める 実践力を養う。

内容	
1	ガイダンス
2	小学校3学年4学年5学年6学年の社会科の目標・内容・年間指導計画
3	小学校3学年4学年の社会科の内容 私たちのまち・くらしと人々の仕事・安全なくらしを守る
4	小学校3学年4学年の社会科の内容 住みよいくらしを支える・郷土の人々の願い・私達の埼玉
5	小学校5学年の社会科の内容 私たちの生活と食料生産 私たちの生活と工業生産
6	小学校5学年の社会科の内容 私たちの生活と情報 私たちの国土と環境
7	小学校6学年の社会科の内容 日本の歴史
8	小学校6学年の社会科の内容 わたしたちの生活と政治 世界の中の日本
9	小学校社会科の小単元の学習指導案の立て方
10	小学校社会科の1時間の授業のあり方 資料の作り方・活用の仕方 学習評価の在り方
11	小学校社会科の小単元の1時間の指導案づくり・活用する資料づくり(1)
12	小学校社会科の小単元の1時間の指導案づくり・活用する資料づくり(2)
13	社会科の模擬授業の実際(1)
14	社会科の模擬授業の実際(2)
15	社会科の模擬授業の実際(3) ・まとめ

評価

課題レポート・指導計画・指導案などの提出物60点 模擬授業等への取り組み40点、とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】各時間に学修する、社会科の内容について、事前に調べ確認しておく。毎時 1 時間

【事後学修】学習したことを毎時間まとめる。毎時後 3 0 分

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【参考図書】

- ・ 小学校学習指導要領 平成 2 0 年 3 月 文部科学省 東京書籍
- ・ 小学校学習指導要領解説（社会編）平成 2 0 年 8 月 文部科学省 東洋館出版社
- ・ 児童用教科書
- ・ 教科書の教師用研究物

科目名	初等生活科教育		
担当教員名	清水 一豊		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

小学校 1 , 2 年の教科 生活科について学習指導要領に基づいて教科の目標や特性について理解し、教材研究や具体的な体験などを通して、生活科の主旨を踏まえた授業を構想、実践できるよう内容を構成した。

科目の概要

生活科の特性を様々な領域から理解を深めていく。実際に校外での学習活動も取り入れ、子どもの目の高さに映る視野を意識しながら、授業づくりや授業場面での教師の役割などについて考えていく。幼保小の学びと育ちを接続するアプローチカリキュラム・スタートカリキュラムの現状にもふれる。

学修目標 (= 到達目標)

学習指導要領の主旨を踏まえた指導計画、学習指導案を作成することができる。気づきや思考、表現など低学年児童の認識過程を理解し、指導・支援・評価計画を作成することができる。 幼保小の接続を図るスタートカリキュラムを作成することができる。

内容	
1	オリエンテーション 生活科授業の特性
2	教科目標 学年目標 内容 生活科創設の経過と背景
3	内容構成の具体的な視点 内容構成要素と階層性
4	内容の 9 つの内容と階層 教科書分析
5	内容の 9 つの内容と階層 教科書分析
6	内容の 9 つの内容と階層 年間指導計画
7	授業づくり 単元構成 学習過程 体験・具体的な活動
8	授業づくり 思考・表現・気づき
9	授業づくり 教師の役割
10	模擬授業 教材研究
11	模擬授業 授業展開
12	模擬授業 授業分析
13	学びと育ちをつなぐ幼保・小の連携・交流の進め方と実際
14	アプローチカリキュラム・スタートカリキュラム
15	生活科の発展 総合的な学習の時間が目指していること まとめ

評価
 毎回の授業レポート (30%) 授業での課題レポート・課題作品 (40%) 授業への参加度 (30%) とし、総合評価 60 点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】各回の授業で扱う項目についてテキストや資料を読み、理解できたこと、理解できなかったことを明確にして授業に出席すること

【事後学修】授業中に指示した課題に取り組んだり、授業で理解できないことについて図書館等でさらに調べ、理解を深める努力する

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 小学校学習指導要領解説 生活編 文部科学省 日本文教出版

【推薦書】 小学校生活科教科書「せいかつ」（上・下） 光村図書出版

【参考図書】

科目名	初等家庭科教育		
担当教員名	勝田 映子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

小学校教諭の免許取得に必要な必修科目で、家庭科の授業づくりの基本を学ぶとともに、児童期の発達的特徴を理解し、児童の生活的な自立性や家庭生活に対する実践的な態度を培うための基礎的な知識や指導技術を学修する。

科目の概要

小学校学習指導要領を基盤として、家庭科の目標や内容、指導上の留意点を学ぶとともに、児童の生活実態や発達課題を理解して、安全で効果的な家庭科の授業づくりの基本を学ぶ。グループ活動を中心とし、探究活動や実習、実践的体験的な活動、模擬授業などを通して学習指導の実際を実践的に学ぶ。

学修目標

- ・ 小学校学習指導要領での家庭科の目標、内容、指導上の重要な留意点について説明することができる。
- ・ 家庭科におけるリスクマネジメント、クライシスマネジメントについて例示することができる。
- ・ 小学校家庭科における基礎的な技能を用いて簡単な調理とミシンを用いた製作を行うことができる。
- ・ 家庭科の指導案を作成し、模擬授業を行うことができる。
- ・ 小学校で家庭科を学ぶ意義について自分の言葉で説明することができる。

内容

1 本授業のガイダンス

授業計画、準備するもの、評価など 生活アンケート

2 家庭科の学びについて理解する

家庭科の学びとは何か - 家庭科の目標と内容、教科の独自性、小中高の関連の理解

学習指導要領を読み解く (グループによる調べ活動と発表ならびに教師からの補足解説)

3 指導法の研究

家庭科における安全指導と安全管理 - 事例研究と実習 -

学習指導計画の作成の仕方 - 解説と演習 -

家庭科の授業づくり 1 - 授業目標と評価・指導案の作り方演習 -

4 指導法の実際

調理実習 (米飯と味噌汁の調理)

～ 模擬授業

5 実習指導の実際

ミシン縫いの基礎を実習し、指導上の留意点について話し合う。

ミシンと手縫いで小物を縫い、児童の視点で作品や授業の展開を検討する。

学習のまとめ これからの家族・家庭生活を展望した指導の在り方について話し合う。

評価

発表活動30点、レポート30点、作品や提出課題30点、授業ポートフォリオの記録10点で60点以上を合格とする。
合格点に満たない場合は、実習を伴った課題を出題し、レポート提出により最終評定を行う。

授業外学習

- 【事前予習】教科書や学習指導要領の内容を自分の言葉で説明できるようにまとめる。課題や模擬授業の準備をする。
- 【事後学修】講義内容について再度、教科書や学習指導要領を読み、確認する。さまざまな指導案を集めたり、小学校の研究授業や公開授業に出かける。授業で示された課題図書を読む。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【教科書】『小学校家庭科教科書「新しい家庭5・6」』 東京書籍、『小学校学習指導要領解説家庭編』 文部科学省
- 【推薦書】『子どものよさを活かす家庭科学習-出会う・かかわる・つくり出す』 勝田映子著 初等教育研究会・不昧堂出版、『小学校学習指導要領の解説と展開家庭編』 安彦忠彦監修・内野紀子編著 教育出版、『できますか？教えられますか？家庭科の基本』 流田直監修・亀井祐子・田中京子・勝田映子著 学研教育みらい【参考図書】『作る手が子どもたちを輝かす』 お茶の水女子大学附属学校家庭科研究会 地域教材社 その他授業内で紹介する。

科目名	初等家庭科教育		
担当教員名	勝田 映子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

小学校教諭の免許取得に必要な必修科目で、家庭科の授業づくりの基本を学ぶとともに、児童期の発達的特徴を理解し、児童の生活的な自立性や家庭生活に対する実践的な態度を培うための基礎的な知識や指導技術を学修する。

科目の概要

小学校学習指導要領を基盤として、家庭科の目標や内容、指導上の留意点を学ぶとともに、児童の生活実態や発達課題を理解して、安全で効果的な家庭科の授業づくりの基本を学ぶ。グループ活動を中心とし、探究活動や実習、実践的体験的な活動、模擬授業などを通して学習指導の実際を実践的に学ぶ。

学修目標

- ・小学校学習指導要領での家庭科の目標、内容、指導上の重要な留意点について説明することができる。
- ・家庭科におけるリスクマネジメント、クライシスマネジメントについて例示することができる。
- ・小学校家庭科における基礎的な技能を用いて簡単な調理とミシンを用いた製作を行うことができる。
- ・家庭科の指導案を作成し、模擬授業を行うことができる。
- ・小学校で家庭科を学ぶ意義について自分の言葉で説明することができる。

内容

1 本授業のガイダンス

授業計画、準備するもの、評価など 生活アンケート

2 家庭科の学びについて理解する

家庭科の学びとは何か - 家庭科の目標と内容、教科の独自性、小中高の関連の理解

学習指導要領を読み解く(グループによる調べ活動と発表ならびに教師からの補足解説)

3 指導法の研究

家庭科における安全指導と安全管理 - 事例研究と実習 -

学習指導計画の作成の仕方 - 解説と演習 -

家庭科の授業づくり 1 - 授業目標と評価・指導案の作り方演習 -

4 指導法の実際

調理実習(米飯と味噌汁の調理)

～ 模擬授業

5 実習指導の実際

ミシン縫いの基礎を実習し、指導上の留意点について話し合う。

ミシンと手縫いで小物を縫い、児童の視点で作品や授業の展開を検討する。

学習のまとめ これからの家族・家庭生活を展望した指導の在り方について話し合う。

評価

発表活動30点、レポート30点、作品や提出課題30点、授業ポートフォリオの記録10点で60点以上を合格とする。
合格点に満たない場合は、実習を伴った課題を出題し、レポート提出により最終評定を行う。

授業外学習

- 【事前予習】教科書や学習指導要領の内容を自分の言葉で説明できるようにまとめる。課題や模擬授業の準備をする。
- 【事後学修】講義内容について再度、教科書や学習指導要領を読み、確認する。さまざまな指導案を集めたり、小学校の研究授業や公開授業に出かける。授業で示された課題図書を読む。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【教科書】『小学校家庭科教科書「新しい家庭5・6」』 東京書籍、『小学校学習指導要領解説家庭編』 文部科学省
- 【推薦書】『子どものよさを活かす家庭科学習-出会う・かかわる・つくり出す』 勝田映子著 初等教育研究会・不昧堂出版、『小学校学習指導要領の解説と展開家庭編』 安彦忠彦監修・内野紀子編著 教育出版、『できますか？教えられますか？家庭科の基本』 流田直監修・亀井祐子・田中京子・勝田映子著 学研教育みらい【参考図書】『作る手が子どもたちを輝かす』 お茶の水女子大学附属学校家庭科研究会 地域教材社 その他授業内で紹介する。

科目名	教材研究		
担当教員名	清水 玲子、増田 吉史、山本 悟、津吹 卓 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

小学校教諭一種取得のための選択科目である。

通年で小学校の主要教科をオムニバスで学ぶ。

科目の概要

小学校では教科により、指導の狙いや内容も異なり、指導方法も多様である。国語・算数・社会・理科・音楽・体育それぞれの教科について学習指導要領に示された指導事項について学ぶとともに、実践的な指導のあり方などについても学ぶ。

学修目標 (= 到達目標)

それぞれの教科について指導目標や内容を知り、具体的に指導するための教材研究の方法を知る。

また指導案なども書いてみる。

内容

小学校で学習するそれぞれの教科での単元や教材について、領域、学年ごとに教材を選び研究する。学習指導要領に示された指導事項と教材の関係を考察するなど、現場での教材研究の方法について習熟する。

必要に応じて指導案を書いたり、資料を作成するなど実践的な学びを行う。3学年での授業研究の基礎となる学修である。

前期	第1週 ~ 5週	算数
	第6週 ~ 10週	体育
	第11週 ~ 15週	国語

後期	第1週 ~ 5週	音楽
	第6週 ~ 10週	理科
	第11週 ~ 15週	社会

評価

ミニレポート (4 割)、授業への取り組み (3 割)、最終レポート (3 割) とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】模擬授業の準備などを行う。

【事後学修】感想をまとめたり、授業の続きを考えたりする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】小学校学習指導要領総則編、小学校学習指導要領解説（各教科）
その他、適宜教室で指示する。

【推薦書】

【参考図書】

科目名	授業研究		
担当教員名	清水 玲子、増田 吉史、日出間 均		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

算数科の授業構成を通し授業研究をすすめる。児童の実態と教材の内容の分析、指導法の工夫等で優れた実践を元に、指導計画立案や学習指導案作成を行う。

科目の概要

「算数」「初等算数科教育」「教材研究（算数）」の上に立ち、算数科の単元指導計画立案や、習熟度熱少人数指導体制の現状理解、学習の主体性を尊重する指導のあり方について学ぶ。

学修目標（＝到達目標）

小学校6年間を通した実践と理論の関係を理解し、略案だけでなく、本案を作成する。

内容

指導計画や指導案を作成し、模擬授業を行う

基礎基本を確実に身につける指導のあり方

個に応じた指導のあり方

学力のとらえ方と評価の関係

一人一人の学力を向上させる指導のあり方

校内の指導体制と保護者の意識

学校間の研究協力と授業力アップの方策

問題解決指導のあり方

補充的な学習の指導と教材開発のあり方

発展的な学習の指導と教材開発のあり方

発展的な学習の指導の実際

T Tのための指導計画の実際

コース選択とコースガイダンスの実際

学習カードと評価を生かした指導の実際

評価のあり方と工夫の実際

振り返りとまとめ

また、教育実習での本案・略案の作り方を予め学び、作成し、模擬授業をする。

評価

指導計画、学習指導案、模擬授業（80%）、試験（20%）で総合的に評価する

授業外学習

【事前予習】指導計画や指導案を実際に作成する

【事後学修】模擬授業後に模擬研究協議会を行う

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】小学校学習指導要領解説(算数編) 東洋館出版

【推薦書】算数科コース別指導による確かな学び 理論実践編 (明治図書)

科目名	授業研究		
担当教員名	清水 玲子、富山 哲也		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

小学校教諭免許取得のための選択科目の一つである。具体的な学習指導案の作成，模擬授業の実施等により，国語科の授業について実践的に学ぶ。

科目の概要

少人数で授業を展開する。学習指導要領と国語科の基本的な指導法の理解を基本として，教材研究，学習指導案の作成，模擬授業の実施，学習評価，映像による授業の振り返りという過程をたどって学修する。また，児童に取り組みせる言語活動について，学生自身が体験して理解を深めるようにする。

学修目標（＝到達目標）

国語科の指導内容・指導方法に関心を持ち，よりよい授業を構想しようとする。

国語科の指導と評価の在り方について理解を深め，自分なりの考えをもつ。

国語科の指導についての基本的な知識と技能を身に付ける。

内容

小学校の授業づくりについて，教材研究に加え，年間指導計画や学習指導案の作成，授業の導入から展開の仕方，子供への接し方等を実践的・総合的に学ぶことを意図した科目である。

年間30週の講義について，基本的に次のように進めていく。

前期	第1週	オリエンテーション
	第2週	今，求められる国語科の授業の構想
	第3週	年間指導計画の作成と学習指導案の在り方
	第4週	教材研究と教材・教具，指導技術
	第5～7週	「読むこと」の言語活動と授業づくり
	第8週	学校図書館，読書活動の位置付け
	第9～10週	「話すこと・聞くこと」の言語活動と授業づくり
	第11～12週	「書くこと」の言語活動と授業づくり
	第13～14週	〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の授業づくり
	第15週	国語科における学習評価

後期	第1週	国語科における学習指導案作成の基本
	第2～4週	「読むこと」の指導と評価（文学的な文章）
	第5～7週	「読むこと」の指導と評価（説明的な文章）
	第8～9週	「話すこと・聞くこと」の指導と評価

- 第10～11週 「書くこと」の指導と評価
第12～13週 「伝統的な言語文化に関する事項」の指導と評価
第14週 「書写」に関する指導と評価
第15週 今、求められる国語科の授業～振り返りとまとめ～

評価

毎回の小レポート20%、模擬授業や発表活動への取組の様子50%、最終的な論述レポート30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

- 【事前予習】言語活動の実際について準備が必要。模擬授業の準備（学習指導案や資料の作成など）。
【事後学修】講義の後に、小レポートの提出を求める。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【教科書】『小学校学習指導要領解説国語編』（東洋館出版社）
【推薦書】授業の中で紹介する
【参考図書】授業の中で紹介する

科目名	授業研究		
担当教員名	清水 玲子、津吹 卓、廣坂 多美子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Cクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

2年次に学んだ「教材研究」をさらに深め、授業づくりの要点を学修するために設定された科目で、小学校教諭免許取得の選択科目の一つである。模擬授業など実践的な活動を仕組むために少人数で授業を展開する。ここでは社会・理科コースの授業の進め方について解説する。

科目の概要

社会・理科コースでは、各々の授業実践における指導技術、指導案作成、教材研究の深め方などを模擬授業、映像等による授業解説などを加えながら総合的に学修することをめざしている。

学修目標 (= 到達目標)

問題解決学習を中心とする社会・理科の2教科に関する授業づくりの特徴や要点を理解するとともに、各々の教材研究の進め方やその手立てを具体的に学修することをねらいとする。特に、指導計画や学習指導案の立案・作成に関する知識の理解、模擬授業を実践できる指導技術の習得を目標とする。

内容

小学校の授業づくりについて、学習内容の中核となる教材研究を深めるだけでなく、授業の進め方や展開法、子どもとの接し方(話術、表情)、指導案や単元計画作成の理解などをより実践的に学ぶことを意図した科目である。

また、このコースでは、問題解決学習の手法を中心に進める。実際の授業は2名の教員がオムニバス形式で担当し、前期15週・後期15週を以下のような授業計画で進める予定である。そして、社会・理科における各々の授業実践における指導技術、指導案作成、教材研究の深め方などを模擬授業、映像等による授業解説、実技指導のポイントやコツの練習などを通して総合的に学修する。

前期 第1週：オリエンテーション

第2～8週：社会科に関する授業研究

第9～14週：理科に関する授業研究

第15週：まとめ

後期 第1週：オリエンテーション

第2～7週：社会科に関する授業研究

第8～14週：理科に関する授業研究

第15週：まとめ

評価

2教科それぞれで実施される「課題作成・発表活動・レポート」などを各40点で評価を行う。それに授業への取り組み（関心・意欲）を各10点とし、総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

授業外学習

【事前予習】授業前に教材について研究を深めておく。毎時30分

【事後学修】模擬授業の反省をし、改善点をまとめる。毎事後30分

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】文部科学省 「小学校学習指導要領解説 社会編」 東洋館出版社（平成20年度版）

文部科学省 「小学校学習指導要領解説 理科編」 大日本図書（平成20年度版）

【参考図書】小学校の社会・理科の教科書・指導書等の教材

科目名	授業研究		
担当教員名	清水 玲子、宮野 周、山本 悟		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Dクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

2年次に学んだ「教材研究」をさらに深め、授業づくりの要点を学修するために設定された科目で、小学校教諭免許状取得の選択科目の一つである。模擬授業など実践的な活動を仕組むために少人数で授業を展開する。ここでは、音楽・図工・体育コースの授業の進め方について解説する。

科目の概要

少人数で学習する体制づくりのために、国語、算数、社会・理科、音楽・図工・体育の4コースに分かれて授業を進める。受講生はいずれかのコースを選択して履修することになる。音楽・図工・体育コースでは、各々の授業実践における指導技術、指導案作成、教材研究の深め方などを模擬授業や映像等による授業解説を加えながら総合的に学修することをめざしている。

学修目標

表現活動を共通項とする音楽・図工・体育の3教科に関する授業づくりの特徴や要点を理解するとともに、各々の教材研究の進め方やその手立てを具体的に学修することをねらいとする。特に、指導計画や学習指導案の立案・作成に関する知識の理解、模擬授業を実践できる指導技術の習得を目標とする。

内容

小学校の授業づくりについて、学習内容の中核となる教材研究を深めるだけでなく、授業の進め方や展開法、子どもとの接し方（話術、表情）、指導案や単元計画作成の理解などをより実践的に学ぶことを意図した科目である。また、このコースでは実技科目特有の技能や技術に関する指導ポイントやコツを共有化することを通して、受講生自身の技能レベルの向上もねらいとする。

実際の授業は3名の教員がオムニバス形式で担当し、前期15週および後期15週を次のような授業計画で進める予定である。そして、音楽・図工・体育科における各々の授業実践における指導技術、指導案作成、教材研究の深め方などを模擬授業や映像等をもとに理解するとともに、実技指導のポイントやコツについても実践的な練習を通して総合的に学修する。

前期 ・第1～5週 オリエンテーション、音楽科に関する授業研究 : 清水 ・第6～15週 図画工作科に関する授業研究、まとめ : 宮野

後期 ・第1～5週 オリエンテーション、音楽科に関する授業研究 : 清水 ・第6～15週 体育科に関する授業研究、まとめ : 山本

評価

3教科それぞれで実施される「課題作成・発表活動・レポート」などを各30点で評価を行う。それに授業への取り組み（関心・意欲）の10点を加えて総合的に評価を実施する。60点以上を合格とするが、合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の講読。プレゼン活動の準備と発表資料作成。

【事後学修】授業ノートおよび配付資料の整理。授業で紹介した推薦書の自主的講読。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

文部科学省 「小学校学習指導要領」東京書籍（平成20年度版）

【参考図書】

授業中に適宜、紹介する。

科目名	道徳教育		
担当教員名	綾井 桜子、高橋 京子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

この科目は小学校教諭一種免許状の取得に必要な「教職に関する科目」であり、「教育課程及び指導法に関する科目」の一つです。

授業では、学校をとりまく現代社会の今日的位相を射程に入れながら、小学校における道徳教育の役割、意義、内容と指導の実際を学びます。特に、道徳的行為を成り立たせる心情、判断力、実践意欲・態度について理解し、実際に模擬授業を行うなかで、「道徳の時間」における指導の仕方を学びます。

学修目標は、次の三つです。 小学校における道徳教育の役割を理解する。 「道徳の時間」について理解し、構想をたてる。 発表を通じて、相互に検討を行い、道徳教育の具体的な方法を身につける。

内容	
1	道徳、道徳教育について（綾井）
2	学習指導要領について 道徳教育の目標、内容、位置づけ、役割（綾井）
3	学習指導要領について 道徳教育の充実、配慮事項（綾井）
4	道徳授業の実際（高橋）
5	道徳教育の実際（高橋）
6	「道徳の時間」の指導過程、指導の工夫（高橋）
7	資料の検討と分析、選択（綾井・高橋）
8	資料の検討と分析、選択（綾井・高橋）
9	指導案の作成手順、作成（綾井・高橋）
10	指導案の吟味、検討（綾井・高橋）
11	模擬授業（綾井・高橋）
12	模擬授業（綾井・高橋）
13	模擬授業（綾井・高橋）
14	模擬授業（綾井・高橋）
15	まとめ（綾井・高橋）

評価

試験40点、課題提出40点、授業への参加度20点とし、60点以上を合格とします。合格点に満たなかった場合は再試験を行います。

授業外学習

【事前予習】『小学校学習指導要領解説 道徳編』を熟読しておくこと。特に、模擬授業の前には、授業以外に、グループ単位で指導案を完成させるほか、事前の練習と準備（90分ほど）が必要である。

【事後学修】模擬授業後には、受講者間での討議をふまえ、レポートをまとめて提出する。他、文部科学省のホームページを適宜、参照し、道徳教育についての施策の動向を把握すること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】文部科学省『小学校学習指導要領』、文部科学省『小学校学習指導要領解説 道德編』

【推薦書】田中智志・橋本美保〔監修〕松下良平〔編集〕『道德教育論』一藝社、2014年

【参考図書】文部科学省『小学校道德読み物資料集』文溪堂、2011年

科目名	特別活動		
担当教員名	上原 行義		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は、教育職員免許法施行規則に定める、小学校の免許取得に必要な「教職に関する科目」のうち、「教育課程及び指導法に関する科目」に対応するものである。

小学校の免許状を取得しようとする者は、必修であるので留意すること。

科目の概要

特別活動は、学校教育における各教科以外の学習の中心となるものである。しかし学習指導要領に示された特別活動の本質や理念が一般的には十分に理解されているとは言えない。特別活動の目的や方法について正しい理解のもとに指導できるよう、下記の学修目標にかかわる事項について具体的に考察する。また、学生が自ら小中学校で体験した特別活動に関する思い出や課題意識を相互に意見交換し、教師として児童生徒の自主的な活動を指導できるようにする。

学修目標

- ・学校教育の今日的課題である「生きる力」の育成に資する特別活動の意義や役割について考察し、特別活動の歴史的変遷や領域ごとの特色について理解する。
- ・望ましい集団活動を組織し、児童生徒が自ら話し合い、協力して実践するための指導のあり方について考察する。
- ・学級活動の授業の進め方について理解し、学習指導案を作成する。

内容

1	1. 学校教育の今日的課題と特別活動	社会動向と教育的課題
2	2. 特別活動の教育的課題	特別活動の特質、性格について
3	3. 日本における特別活動の歴史と変遷	近代日本の教科外活動、戦後における特別活動
4	4. 学級活動の意義と指導の実際	学級活動の意義と性格
5	5. 学級活動の内容・方法・評価	学級活動の指導形態と方法
6	6. 学級活動(2)の展開事例と今日的課題	学級活動の指導案
7	7. 学級活動(1)の展開事例と指導	
8	8. 児童会活動、生徒会活動	児童会・生徒会活動の特質と目標、内容及び指導上の留意点
9	9. クラブ活動、部活動の歴史的変遷と教育的意義	
10	10. 学校行事の目標・内容・指導計画等	望ましい実施と指導上の配慮事項
11	11. 総合的な学習の時間との関係	
12	12. 学級活動模擬授業の進め方について	指導案の検討、模擬授業の準備
13	13. 模擬授業の実践(1) 学生の選択した主題	
14	14. 模擬授業の実践(2) 学生の選択した主題	
15	15. 模擬授業の評価とまとめ	

評価

レポート課題60%及び平常の授業態度、提出物等40%により評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

授業外学習

【事前予習】教科書等の該当ページに目を通しておく。

【事後学修】本時の学習課題について自分の言葉でまとめをする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】遠藤昭彦、山口満編 『道徳教育と特別活動』教職教育講座 第4巻 協同出版

文部科学省 『小学校学習指導要領』 政府刊行物

文部科学省 『小学校学習指導要領解説 特別活動編』 政府刊行物（ぎょうせい出版）

科目名	教育方法		
担当教員名	狩野 浩二、津吹 卓		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は、教育職員免許法施行規則で定められた科目の中で、幼稚園教諭、小学校教諭、中学校教諭、高等学校教諭の普通免許を取得するために、必修と定められた科目である。同施行規則で定められた科目には、「教育方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む）」となっているが、コンピュータ等の操作技法については、高等学校まであるいは大学入学後に「情報処理演習」において十分に学習しているため、操作技法については行わない予定である。

本科目では、「方法・技術」を軽視したり、メディアや情報機器を活用することが「方法・技術」であるとしたりするものではなく、教師が身に付けている方法や技術はきわめて重要であると考えている。

「方法・技術」には、子どもの状態を見抜き、事態の先を見通す洞察力なども含んだ「教師力」そのものであると考えている。その意味において、教員を目指すものには必ず理解し、学修してほしい分野である。

内容

以下に取り扱う内容を示す（順不同）。

テキストの順序に沿っている。

- 1 教育の方法と技術（教育の方法・技術とは何か、子どもの学びと教師の方法・技術など）
- 2 授業が目指すものは何か（授業の方法・技術と子ども、子どもの固有性と方法・技術の創造性）
- 3 授業の構想と計画（構想と計画の基本的視点、指導案はどう書くか、指導案を支える教材研究）
- 4 指導案作成（実習課題）
- 5 教えることと支援すること（本気で教えること、学習支援と称して放置すること）
- 6 問いの創造と授業の展開（問いの発見から課題の成立へ、授業の構成と学習形態）
- 7 教材づくり・教材発掘の視点（教材づくり・教材発掘の視点、教材研究）
- 8 授業と教授メディア（教授メディアの変遷、授業はどのように変わるか）
- 9 コンピュータの利用（コンピュータと現代社会、コンピュータの教育利用の領域と教師の役割）
- 10 学習障害（LD）の理解と指導（学習障害の概念、LDの要因と理解、指導法）
- 11 特別支援教育と方法・技術（特別支援教育、Normalization, ADHD）
- 12 授業と教師（教師の力量、表現としての教師の身体、教師のことば）
- 13 教育評価の役割と方法
- 14 学力と教育評価の課題（予期しない学習の結果、教育的働きかけと評価、学力）
- 15 まとめ

評価

評価は、授業態度（授業への参加度や、授業中の課題への取り組み状況）を10%、課題の提出状況と達成度を90%とし、総合的に行う。全体の60%以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】テキストの該当箇所を予め読み、概要をまとめ、疑問点を析出します。講義に持参します。

【事後学修】班発表の内容や班討論の内容を整理し、予習した個別学修内容と比較検討し、振り返りレポートを作成します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】松平信久・横須賀薫編『新訂教育の方法・技術』教育出版

【参考図書】横須賀薫編『授業研究用語辞典』教育出版，その他教室で紹介する。

科目名	保育内容総論		
担当教員名	岡上 直子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修 *
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、幼稚園教諭免許取得の必修科目であり、保育内容と指導方法を学級経営と関連させて学ぶことで、幼稚園教育実習へと向かうための総まとめの科目という性格をもつ。

科目の概要

幼児期にふさわしい生活を展開するためには、どのような環境や保育内容が必要か、具体的な場面を想定しながら考え発表する機会をもち、保育の在り方を総合的に考える力を養うことを目的とする。

学修目標 (= 到達目標)

- ・ 幼稚園教育要領における領域の意味と関係性について理解する。
- ・ 幼児の実態に即した保育の展開を構想できる。
- ・ 保育内容やねらいに即した指導計画を作成し、実践するための力量を獲得する。

内容

1	保育内容とは何か (幼稚園教育の基本)
2	幼稚園教育の特性・幼稚園の一日の生活
3	遊びと生活を通して学ぶ 3 歳児
4	遊びと生活を通して学ぶ 4 歳児
5	遊びと生活を通して学ぶ 5 歳児
6	保育形態と教師の援助
7	保育の質を高める教材と指導の在り方
8	幼稚園の特色・教育方針 (様々な幼稚園の現状理解)
9	幼児の主體的な遊びを充実させる環境の構成
10	学級集団とグループダイナミックス
11	指導計画の作成と指導の工夫
12	グループごとの発表 1 (指導計画)
13	グループごとの発表 2 (指導の工夫)
14	保育内容を充実させる教師の専門性
15	まとめ

評価

授業への取り組み30%、課題提出40%、筆記試験30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】事前に提示する課題に関する資料検索、発表準備 (1時間)

【事後学修】授業ノートの整理・まとめ、提示する課題に関するレポート作成 (1時間)

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】プリントを配布する

【推薦書】大豆生田啓友・渡辺英則・柴崎正行・増田まゆみ編「最新保育講座 保育内容総論」ミネルヴァ書房
岡上直子・高梨珪子「保育者論」光生館、文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館

科目名	保育内容の指導法（人間関係）		
担当教員名	中山 和佳子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目は、幼稚園教諭一種免許や保育士資格取得のための必修科目であり、「幼稚園教育要領「保育所保育指針」に示されている領域「人間関係」の指導法について学ぶ教科である。

科目の概要

領域「人間関係」のねらい・内容を理解し、幼児期の人とかかわる力の発達過程をふまえた教師の指導・援助について、演習形式で学ぶ。

学修目標（＝到達目標）

- ・乳幼児期の子どもの人とかかわる力が育つ過程を知り、教師や友達とのかかわりの中で、どのように人間関係が育っていくかを理解する。
- ・領域「人間関係」の意義とねらい・内容を理解し、具体的な子どもの姿と結び付けて考えることができるようになる。
- ・豊かな社会性の形成を目指して、幼稚園教諭として積極的に援助することができるようになる。

内容

この授業では、幼児期の人間関係の発達を教科書やDVDの映像、写真など、具体的な姿や事例からイメージしたり、教材（絵本・歌等）に触れたりしながら理解を深める。また、園での生活や遊びの中で子どもたちが体験している内容を知り、具体的な援助や教師の役割について演習を通して学ぶ。

1	領域「人間関係」の意義とねらい・内容
2	乳幼児期の発達（愛着と信頼の形成）
3	幼児自ら行動する力
4	友だちとの出会い・友だち関係の変容
5	園での3歳児の人とのかかわり
6	園での4歳児の人とのかかわり
7	園での5歳児の人とのかかわり
8	けんかやトラブルを通して体験すること
9	道徳性の芽生え
10	遊びの中の人とのかかわり
11	遊びや生活の中で育つ規範意識の芽
12	個と集団の育ち
13	さまざまな人との多様なかかわり
14	教師の存在と役割
15	まとめ

評価

授業への取組み（20％）、課題レポート（30％）、期末試験（50％）とし、総合評価の60点以上を合格とする。
合格点（60点）に満たなかった場合は、再試験を行う。

授業外学習

- 【事前予習】事前に配布されたプリントや教科書の購読、課題を意識する。
- 【事後学修】講義・演習・協議などから学んだ内容を整理、課題に関するレポートを作成し提出する。DVD視聴後は、課題につながる内容をまとめておく。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【教科書】無藤隆監修・岩立京子編集代表「事例で学ぶ保育内容 領域人間関係」萌文書林
- 【推薦書】友定啓子・小田豊編著「新保育シリーズ 保育内容 人間関係」光生館
榎沢良彦・入江礼子編著『シードブック保育内容 人間関係』建帛社
- 【参考図書】文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館
厚生労働省「保育所保育指針解説書」フレーベル館
文部科学省「幼稚園における道德性の芽生えを培うための事例集」ひかりのくに

科目名	保育内容の指導法（言葉）		
担当教員名	富山 哲也		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性質

幼稚園教諭免許状資格取得のための必修科目であり，この科目を履修していることが幼稚園での実習を行うための必要条件となっている。

科目の概要

幼稚園教育要領・保育所保育指針に示される領域「言葉」の内容と指導法について学修する。子どもを受容し安心感を育てていくような言葉かけ、遊びの発展を促していく言葉かけ、自分の気持ちや考えを友だちに伝えたり、友だちの発言を聞いて分かってもらう態度を育てる言葉かけといった具体的な保育援助の在り方を考えていく。また，絵本の読み聞かせ等の活動にも実際に取り組む。

学修目標

子供の言葉を育てる者として，社会における言葉や自身の言葉遣いに関心をもつ。

幼稚園教育要領・保育所保育指針に示される領域「言葉」の指導法について理解する。

絵本等の児童文化財について，教材研究と実践のスキルを養う。

内容	
1	ガイダンス～幼児教育の目的と領域「言葉」～
2	乳幼児期の言葉，言葉の発達を捉える視点
3	言葉にならない表現
4	考えや思いを伝える言葉
5	実際の子供の姿から言葉について考える
6	感情体験と言葉
7	子供の言葉を豊かにする絵本の世界
8	絵本の読み聞かせの方法
9	絵本の読み聞かせの実際
10	領域「言葉」と他領域との関係
11	文字との出会い
12	遊びの中の言葉
13	言葉遊び，劇遊び
14	家庭との連携，小学校との連携
15	まとめ～乳幼児の言葉と保育者の役割

評価

毎回の小レポート30%，実習や討論等への参加状況30%，最終的な論述レポート40%とし，総合評価60点以上を合

格とする。

授業外学習

【事前予習】演習を伴う内容については，事前の予習・準備が必要。

【事後学修】講義の後に，小レポートの提出を求める。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『事例で学ぶ保育内容 領域言葉』（無藤 隆 監修，萌文書林，2,000円）

【推薦書】教室で紹介する

【参考図書】教室で紹介する

科目名	保育内容の指導法（音楽）		
担当教員名	清水 玲子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児期における音楽教育の必要性と大切さを理解した上で、保育現場での実際の音楽活動について学ぶことを目的とする。

科目の概要

童謡や子どもの歌をとりあげ、普段の保育で遊ぶ簡単なリズムあそびや、発表会・運動会などの行事で発表する簡単なリズムダンスへの発展の仕方などを修得し、導入法などを学ぶ。

また同時に童謡や子どもの歌と一緒にうたいながら演奏できる伴奏法も学び、保育者自身のピアノの技術の向上もめざす。音楽をいかに楽しく表現するか、その音楽を子どもにどのように指導していくかを勉強していく。

学修目標

個人個人の技量に合わせて最終的に伴奏でき、音楽あそびにおいては保育者が自分で考案し指導できるようになることを学修目標とする。

内容

この講義は、毎回童謡や子どもの歌に合わせて動いたり遊んだり、また課題曲を歌いながらピアノを弾く実技を伴うものである。

(1)歌いながら伴奏をする。

前半の60分は、ピアノの実技を中心に講義を行う。

音楽を、季節・行事・遊び・生活・その他のジャンルに分類する。それぞれのジャンルから、よく歌われる歌、知っている歌、新曲などから、毎回課題として3~4曲ずつ選曲し、個人の技量に合わせて編曲をして弾き、また子どもの発達段階に合わせての指導法を勉強する。

リズム・フレーズ・拍子など音楽分析

各自の技術に合わせた演奏と編曲

歌いながらの指導法

行事関係の曲

生活関連の曲

あそび関連の曲

(2)リズム遊びや動きなどを中心として動く。

後半30分は、手遊び・リズムあそび・リズムダンスを2~3曲覚える。

普段の保育でのリズムあそびやその創作

発表会や運動会を中心としたあそび・動き

歩くリズムの捉え方

走るリズムの捉え方

スキップのリズムの捉え方

流れるリズムの捉え方
縦乗りのリズムの捉え方

評価

毎回ごとの課題に対する発表(60点)と試験(30点)、通常の授業態度(10点)により評価を行い、60点を以上を合格とする。合格点に満たない場合は「再試験」を行う。

授業外学習

- 【事前予習】課題曲3曲の楽譜を読譜し練習する。
- 【事後学修】授業内で習ったことの整理。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

適宜、テキスト・プリント・CDを使用し紹介する。

推薦CD:

- ・しみずれいこのリズム・あそび&ダンス 大集合(キングレコード)
- ・年間とおして!毎日やくだつ!保育ベスト30あそび(キングレコード)など

科目名	保育内容の指導法（健康）		
担当教員名	岡上 直子、山本 悟、鳩山 多加子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

この科目は、幼稚園教諭免許取得の必修科目であり、領域「健康」に関する専門的な知識と実践的指導力を身に付けることを目的とする。

科目の概要

健康・安全に必要な基本的な生活習慣や幼児の運動遊びに関する指導法を学ぶとともに、施設・設備の整備に関する具体的な方法を理解する。指導法を学ぶ場として、受講者全員に模擬保育を体験させる。

学修目標（＝到達目標）

- 1 幼児期の健康、生活習慣の指導に関する知識や技能を身に付ける。
- 2 幼児期の運動の重要性を理解し、指導の方法を考えることができる。
- 3 健康に関する教材を具体的に作り、活用できる。

内容

1	幼稚園教育要領の領域「健康」について	：山本、岡上
2	幼児期の健康的な生活について	：山本、岡上
3	子どもの心身の発育・発達とその特性	：山本、岡上
4	保育の構想（模擬保育の展開の工夫と指導計画立案）	：山本、岡上
5	子どもの運動遊びと基本的な生活習慣	：岡上、鳩山
6	幼稚園における実際活動（1）（運動遊びと健康指導）	：岡上、鳩山
7	子どもの遊びと運動に関する指導法（模擬保育）	：山本、鳩山、岡上
8	子どもの遊びと運動に関する指導法（模擬保育）	：山本、鳩山、岡上
9	子どもの遊びと運動に関する指導法（模擬保育）	：山本、鳩山、岡上
10	幼稚園における実際活動（2）（模擬保育の振り返り）	：岡上、鳩山
11	子どもの生活リズムに関する指導法（模擬保育）	：山本、鳩山、岡上
12	子どもの保健に関する指導法（模擬保育）	：山本、鳩山、岡上
13	子どもの安全に関する指導法（模擬保育）	：山本、鳩山、岡上
14	幼稚園における実際活動（3）（模擬保育の振り返り）	：岡上、鳩山
15	子どもの救急法、まとめ	：山本、岡上

評価

模擬保育と振り返りのレポート60%、まとめのレポート20%、授業への取り組み20%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連した教科書の講読。模擬保育の教材準備と指導案の作成（2時間）

【事後学修】授業ノート及び配布資料の整理。振り返りレポートの作成（1時間）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館

【推薦書】杉原隆・川邊貴子「幼児期における運動発達と運動遊びの指導」ミネルヴァ書房、
学省「幼児期運動指針」

文部科

科目名	保育内容の指導法（造形）		
担当教員名	宮野 周		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

幼稚園教育要領の第1章総則、第1幼稚園教育の基本の中に「...幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする。」と示されている。また保育所保育指針では第1章 総則、3 保育の原理の（3）保育の環境の中で、「...人、物、場などの環境が相互に関連し合い、子どもの生活が豊かなものとなるよう、...計画的に環境を構成し、工夫して保育しなければならない。」とある。そうした保育の環境を構成する人的、物的、自然や社会の事象などを有効に取り入れる努力が求められている。子どもたちの日々の活動の中で造形活動は以上の「人的、物的、自然や社会の事象」と深く関わっている活動である。それらをいかに組み合わせ順序付けて構成することが望ましいかを演習を通して学ぶことがねらいである。

子どもたちは日々の活動の中で造形活動は大好きな活動のひとつである。「人的、物的、自然や社会の事象」と深く関わることは子どもの興味関心と深く関わる活動でもある。それらをいかに組み合わせ順序付けて構成することが望ましいか、実際の保育を視野に置きながら演習を通して学んでいく。

いわゆる作品主義の活動ではない。ものと出会い、人と関わり合い、事象に触れ心ときめかせる子ども達に共感できる資質を磨くことを目標とする。

内容

- 1.オリエンテーション・自然との出会い-1
2. 自然との出会い-2
3. 自然との出会い-3
4. 自然との出会い-4
5. 自然との出会い-5
6. ものとの出会い-1
7. ものとの出会い-2
8. ものとの出会い-3
9. ものとの出会い-4
10. ひととの出会い-1
11. ひととの出会い-2
12. ひととの出会い-3
13. 社会の事象と造形-1
14. 社会の事象と造形-2
- 15.まとめ

以上を天候なども考慮しながら順番を変更して行なう。

評価

授業を通して学ぶので、感じ考えたことや実験してわかったことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、自分自身のポートフォリオを作成すること(60点)。また活動への取り組み、学習態度、作品の提出(40点)とし、総合評価60点以上で合格とする。

授業外学習

【事前予習】実技も含めた授業内容となるため、各自、必要な身支度、道具・材料を準備すること(適宜・指示します)。

【事後学修】授業を通して体験したことを専用のスケッチブックにまとめ理解を深めること。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

磯部錦司『造形表現・図画工作』建帛社

科目名	保育内容の指導法（造形）		
担当教員名	宮野 周		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択,必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

幼稚園教育要領の第1章総則、第1幼稚園教育の基本の中に「...幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする。」と示されている。また保育所保育指針では第1章 総則、3 保育の原理の（3）保育の環境の中で、「...人、物、場などの環境が相互に関連し合い、子どもの生活が豊かなものとなるよう、...計画的に環境を構成し、工夫して保育しなければならない。」とある。そうした保育の環境を構成する人的、物的、自然や社会の事象などを有効に取り入れる努力が求められている。子どもたちの日々の活動の中で造形活動は以上の「人的、物的、自然や社会の事象」と深く関わっている活動である。それらをいかに組み合わせ順序付けて構成することが望ましいかを演習を通して学ぶことがねらいである。

子どもたちは日々の活動の中で造形活動は大好きな活動のひとつである。「人的、物的、自然や社会の事象」と深く関わることは子どもの興味関心と深く関わる活動でもある。それらをいかに組み合わせ順序付けて構成することが望ましいか、実際の保育を視野に置きながら演習を通して学んでいく。

いわゆる作品主義の活動ではない。ものと出会い、人と関わり合い、事象に触れ心ときめかせる子ども達に共感できる資質を磨くことを目標とする。

内容

- 1.オリエンテーション・自然との出会い-1
2. 自然との出会い-2
3. 自然との出会い-3
4. 自然との出会い-4
5. 自然との出会い-5
6. ものとの出会い-1
7. ものとの出会い-2
8. ものとの出会い-3
9. ものとの出会い-4
10. ひととの出会い-1
11. ひととの出会い-2
12. ひととの出会い-3
13. 社会の事象と造形-1
14. 社会の事象と造形-2
- 15.まとめ

以上を天候なども考慮しながら順番を変更して行なう。

評価

授業を通して学ぶので、感じ考えたことや実験してわかったことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、自分自身のポートフォリオを作成すること(60点)。また活動への取り組み、学習態度、作品の提出(40点)とし、総合評価60点以上で合格とする。

授業外学習

【事前予習】実技も含めた授業内容となるため、各自、必要な身支度、道具・材料を準備すること(適宜・指示します)。

【事後学修】授業を通して体験したことを専用のスケッチブックにまとめ理解を深めること。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

磯部錦司『造形表現・図画工作』建帛社

科目名	保育内容の指導法（表現）		
担当教員名	狩野 浩二、久保田 葉子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

教育職員免許法に定められた「指導法」に関する科目である。幼稚園教員免許状一種取得（小学校教員免許一種取得者に限る）に必要な科目であり、身体表現，朗読，歌唱表現等を子どもたちに指導する際の内容や方法について学ぶ。

この科目では，子どもたちの身体表現，朗読表現，歌唱表現等を指導する際に必要となる教師の技術について，実際に作品を教材として実際に学ぶことになる予定である。学修に際しては，運動のできる服装，裸足になることがあること，などに留意すること。

まずは，学生自らが心をひらいて表現する経験を積むことである。その上で，子どもたちに表現活動を指導する際には，どのようなことに注意したらよいかを実技を交えて学ぶことである。

内容

教室において，取り組む教材『子どもの世界だ』（斎藤喜博詩、近藤幹雄曲）を紹介する。その上で，朗読表現，歌唱表現，身体表現等について，個人やグループで個別的に学修し，お互いにそれぞれの良さを学び合うことになる。

毎回の授業において，取り組む作品についての教材解釈，個人練習，集団練習の方法，作品構成の理解，発表までの道筋，発表における留意点等を，実際に学ぶことになる。

まずは，教員として必要となる表現力の養成ということを主眼とする。その上で，幼児に指導する際の勘所を作品に即して指導することになる。

受講生が40名を超える場合は，班を編制し，各班ごとに作品に取り組むことになる。

第1回 教材の配布、履修登録の確認。教材紹介。

第2回 教材の練習。『子どもの世界だ』の作品解釈と朗読、歌唱。練習第1連。

第3回 練習第2連。呼吸法、とその指揮法。

第4回 練習第3連。姿勢の保ち方。

第5回 練習第4連。身体の脱力、野口体操。

第6回 練習第5連。腹式呼吸法。

第7回 練習第6連。歌唱の指導、指揮法。

第8回 練習第7連。ピアノ伴奏と表現。

第9回 練習第8連。日本語の言葉と、表現。

第10回 練習第9連。作品のイメージを生かした表現の工夫。

第11回 練習第10連。イメージを豊かに育む指導法。

第12回 練習第11連。身体表現指導。

第13回 全体練習(朗読を中心に)

第14回 全体練習(歌唱を中心に)

第15回 まとめ(発表会)

評価

毎回の取り組みの様子（3割）、振り返りの課題（7割）を提出してもらい，その内容を総合して60点以上を合格とす

る。

授業外学習

【事前予習】歌唱や朗読の練習をします。

【事後学修】講義中の練習を踏まえて、自己の課題を意識し、歌唱や朗読の練習をします。振り返りのレポートを書き、最終的には、表現活動から学んだことを文章化します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキスト（教科書）は、印刷して配布する予定である。

参考文献

梶山正人，松平信久，横須賀薫編『心をひらく表現活動』全三巻，教育出版

斎藤公子『さくら・さくらんぼのリズムと歌』群羊社

科目名	生徒指導・進路指導		
担当教員名	上原 行義		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は、教育職員免許法施行規則に定める、小学校の免許取得に必要な「教職に関する科目」のうち、「生徒指導、教育相談及び進路指導に関する科目」に対応するものである。

小学校の免許状を取得しようとする者は、必修であるので留意すること。

科目の概要

生徒指導は、学校における教科指導と並んで学校教育の中心となるものである。しかし、生徒指導の本質や理念が一般的には十分に理解されているとは言えない。生徒指導の機能について正しく理解し指導できるよう、下記の学修目標にかかわる事項について具体的に考察する。また、学生自らの小中学校における生徒指導の体験や課題意識を相互に意見交換し、児童生徒の生き方・在り方にかかわる指導ができるようにする。

学修目標

- ・生徒指導の意義や目的、内容、方法について理解を図りつつ、自らの児童観、教師観を構築していく。
- ・生徒指導上の諸問題について、グループごとに課題を設定し、その対応の仕方を具体的に考察する。
- ・小学校における進路指導の在り方について考察する。

内容

授業は教科書を使って行うが、講義形式だけでなく、自ら課題を見つけ、調査・検討し、発表するグループワークを行う。小学校における指導を意識した具体的な指導力について、体験的に学び合い、互いに高め合える授業をめざす。

1	1. 生徒指導の意義と目的
2	2. 生徒指導の領域・内容と課題
3	3. 生徒指導と教育課程との関連
4	4. 各教科・道徳・特別活動等の生徒指導に果たす役割
5	5. 生徒指導の組織と計画
6	6. 児童・生徒理解の意義と重要性
7	7. 児童・生徒理解の内容と方法
8	8. 児童・生徒理解の具体的な手だての有効性と問題点・留意点
9	9. 生徒指導における集団指導の意義と方法
10	10. 生徒指導における集団指導の実際(1) 思いを伝えづらい雰囲気改善する指導法
11	11. 生徒指導における集団指導の実際(2) 子どもの気持ちをつかむ指導法
12	12. 進路指導の目的と内容
13	13. 小学校における進路指導
14	14. 学習のまとめ・進路指導の方法と指導計画
15	15. まとめ・進路相談実習

評価

試験60%及び平常の授業態度、提出物等40%により評価を行い、60点以上を合格とする。
合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

授業外学習

- 【事前予習】教科書等の該当ページに目を通しておく。
- 【事後学修】本時の学習課題について自分の言葉でまとめをする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【教科書】江川? 成編著 『生徒指導の理論と方法』 学芸図書
- 【参考図書】学校教育研究所編 『生徒指導の今日的課題』 学校教育研究所
新井邦男、住田正樹、岡崎友典編著 『改訂 生徒指導』 放送大学教育振興会
仙崎 武、野々村新、渡辺三枝子、菊池武剋編 『入門 生徒指導・相談』福村出版

科目名	幼児理解の理論と方法		
担当教員名	岡上 直子、宮崎 信子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児期の教育は、幼児理解から始まる。本科目は、幼児教育に関する他の科目を履修する際の基盤となる幼児理解の考え方や具体的な方法を身に付けることを目的としている。

科目の概要

「一人一人の幼児を理解すること」の意味及び方法について、幼児の発達と関連させて理論から学ぶ。また、具体的な幼児の行動記録やビデオ記録等からの読み取りを通して、幼児を理解するための手がかりや方法について学ぶ。

学修目標（=到達目標）

- ・幼児を理解する力の基礎となる幼児の心身の発達や認知の傾向等を理解する。
- ・多面的な幼児理解の方法について知る。
- ・幼児理解の具体的な視点を学び、幼児の内面を捉える力を身に付ける。

内容

1	幼児理解の意味と重要性	: 岡上直子
2	発達や学びの連続性	: 岡上直子
3	幼児理解のための教師の姿勢	: 岡上直子
4	3歳児の遊びと生活	: 宮崎信子
5	一人一人の幼児の理解（3歳児）	: 宮崎信子
6	4歳児の遊びと生活	: 宮崎信子
7	一人一人の幼児の理解（4歳児）	: 宮崎信子
8	5歳児の遊びと生活	: 宮崎信子
9	一人一人の幼児の理解（5歳児）	: 宮崎信子
10	「自分」と「友達」の世界の広がり	: 岡上直子
11	集団と個の関係	: 岡上直子
12	記録の工夫と実際	: 岡上直子
13	記録の読み取りから深める幼児理解と評価	: 岡上直子
14	日常の評価と指導要録への記入	: 岡上直子
15	まとめ	: 岡上直子

評価

授業への取り組み10%、課題提出40%、筆記試験の達成度50%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容部分(指定箇所)の講読、課題の発見(1時間)

【事後学習】講義・協議から学んだ内容整理、課題に関するレポート作成、提出(1時間)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】文部科学省 幼稚園教育指導資料第3集「幼児理解と評価」 ぎょうせい

【推薦書】岩田純一 「子どもの発達を理解から保育へ」 ミネルヴァ書房

科目名	教育相談		
担当教員名	上原 行義		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

〔科目の性格〕

学級担任としての教育相談的対応のためには、他の教師やスクールカウンセラーとの連携による組織的な指導援助を欠かすことができない。学生自身が主体的に学び、相互に意見交流をする体験を通して、教師として大切な協働の精神や人間関係形成力を身につける。

〔科目の概要〕

学校教育において個に応じたきめ細かな指導を進めるために、児童生徒理解を欠かすことはできない。指導にあたる教師が児童生徒のありのままを受け止め、教育相談的にかかわることができるようにするため、下記の学修目標にかかわる事項について具体的に考察する。

〔学修目標〕

- (1) 教育相談やカウンセリングの歴史及び基本的な理論について理解し、学校教育相談の意義や課題について考察する。
- (2) 学校において生徒指導の中核をなす教育相談の果たす役割について理解し、カウンセリングマインドによる具体的な指導のあり方について考察する。
- (3) 学校教育相談の進め方について理解し、カウンセリングの基礎的な技能を身につける。

内容

- 第1回 学校教育と教育相談
- 第2回 乳児期・幼児期における子どもの問題
- 第3回 小学校における子どもの問題
- 第4回 中学校・高等学校における子どもの問題
- 第5回 発達障害の理解と支援
- 第6回 精神疾患の理解と支援
- 第7回 教育相談の理論
- 第8回 教育相談の技法
- 第9回 学級経営に生かす教育相談
- 第10回 学校で使えるアセスメント
- 第11回 保護者への理解と支援
- 第12回 校内及び関係機関との連携、カウンセリングの実際
- 第13回 スクールカウンセラーの活用、カウンセリング模擬体験
- 第14回 カウンセリング実習(1)身内の問題
- 第15回 まとめ、カウンセリング実習(2)将来の問題

評価

毎回の授業の振り返り、レポート課題、発言等の平常点の評価40%、試験による評価60%により評価する。総合評価60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

授業外学習

【事前予習】教科書等の該当ページに目を通しておく。

【事後学修】本時の学習課題について自分の言葉でまとめをする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

〔教科書〕

「教師のたまごのための教育相談」会沢信彦、安齊順子 編著 北樹出版

〔推薦書〕

「小学校学習指導要領」文部科学省

「学級教育相談入門」有村久春 著 金子書房

「生徒指導と教育相談」教職教育講座第5巻 長谷川 栄、杉原一昭 編 共同出版

科目名	学校観察実習		
担当教員名	綾井 桜子、津吹 卓、狩野 浩二、山本 悟 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

教職専門科目として、必修の実習である。

科目の概要

当学科が指定する新座市内の地域の小学校を中心としたボランティア(学習補助を中心とする)活動等、経験を通して学校の実際を知る。

学修目標 (= 到達目標)

- ・学校教育活動における児童の実態のあらましについて知ること。
- ・教職員の教育活動の実際を知ること。
- ・子どもとの関わり方について、本実習での経験を通じて知ること。

内容

大学の授業がない夏休みや冬休みに、指定した地域の小学校の学習補助等に参加する。活動時間は、記録証明簿に記載しておく。またウェブ上の履修カルテにも記入する。

1年間継続的に学級補助等を行うことにより、学校の1年間を見通す。毎回、「ボランティア活動日誌」をつけることにより、自分の行動、見方、考え方を振り返り、教職への確固とした意識をもつ。学校現場に身を置くことにより、教師としての、言葉使い、服装、行動等を知る。

評価

ボランティア活動時間ならびに活動日誌を点検し、学生個々の学校観察の内容を吟味して採点する。総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】担当校についてよく確認をする。教師としての服装、身だしなみ、言葉遣い等、事前に確認をする。

【事後学修】ボランティア活動の日誌を必ず整理する。活動後30分。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【推薦書】事前指導の折に、適宜、紹介する。

【参考図書】事前指導の折に、適宜、紹介する。

科目名	教育実習事前事後指導		
担当教員名	宮川 保之、清水 玲子、綾井 桜子、狩野 浩二 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

【履修登録は、通常では3年次後期に行ってください。前期科目は再履修者用です】

科目の性格

この授業は教職員免許法で定める小学校の教育実習に係わる事前事後の指導を行うことをねらいとしている。

科目の概要

教育実習の目的、進め方、教育実習へ臨む心構えをはじめ、実際の授業の進め方、指導案の作成の方法等について講義、演習を行う。また、教育実習後の発表、協議を行う。

学修目標(= 到達目標)

教員にかかわる法規について知る。

実習の意義と心構えについて学ぶ。

指導案の作成や授業を想定し模擬的に行うことができる

内容	
1	教育実習ガイダンス
2	教育関係法規
3	教育関係法規
4	教育課程、生徒指導
5	小学校学習指導要領
6	小学校学習指導要領
7	小学校学習指導要領
8	指導案を書く意義と書き方の基本
9	実習を終えて(4年生の話)
10	教育実習に向けて
11	教育実習に向けて
12	事例研究
13	事例研究
14	教育実習事後指導
15	教育実習事後指導

評価

事前指導におけるレポート(2割)、指導案等の取り組み状況(3割)、事後指導における研究協議の内容、自己評価の内容(5割) とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】課題について予習をしてくる。次週で扱う範囲の予習も含め、1時間程度の予習が必要である。

【事後学修】学修について復習課題を行う。事前予習にて理解不足の点、授業にて明らかになった課題等について、整理し、まとめを行う。1時間程度の事後学習が必要となる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『小学校学習指導要領』』（文部科学省）、『小学校学習指導要領解説総則編』（文部科学省）、杉原誠四郎監修『「必携」学校小六法』共同出版社。その他、授業時に適宜、資料を配布する。

【推薦書】授業にて指示する。

【参考図書】授業にて指示する。

科目名	教育基本実習		
担当教員名	山本 悟、津吹 卓、狩野 浩二、増田 吉史 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

3年時に通年で1単位の必修科目である。

科目の概要

地域の小学校（特に、新座市、朝霞市、志木市、和光市ほか、東京都東久留米市、清瀬市等）を中心に、小学校での授業支援ほかボランティア活動を行い、学校現場に出て行う実習である。

学修目標（=到達目標）

年間20日を目安とし、配当学校の実情に合わせてボランティアを行い、学校現場の実態を知り応用実習の心構えを持つ。

内容

年間を通じて配当学校の実情に合わせて 20日を目安にボランティア活動を行う。その際、2年生とチームを組みリーダーとして運営、連絡を担当する。

評価

配当学校の実情により活動内容が異なるため、実習日誌の記録、および学校からの情報をもとに判断する。

授業外学習

【事前予習】連絡調整の有無。

【事後学修】自習日誌の記録。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

【推薦書】必要に応じて指示する。

【参考図書】必要に応じて指示する。

科目名	教育応用実習		
担当教員名	山本 悟、津吹 卓、狩野 浩二、増田 吉史 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	3
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

卒業要件に関わる必修科目である。また小学校の教員免許を取得するためにも必要である。4週間の小学校現場での実習を行う。

科目の概要

4年時の5～6月ごろに、小学校（特に、新座市、朝霞市、和光市、志木市や東京都などの地域を中心とする）での実習を行う。その際は、学生ではあるが、教員の一員としての自覚を持ち、小学生の前に立つ。参観だけでなく、学級担任として清掃、給食のような生活指導や学修補助、および実際の授業も体験する。学校長はじめ教員からの講和や指導案の作成など教育現場でしかできない学びをする。

学修目標（＝到達目標）

小学校の教員としての自覚を持ち、4週間という長期の実習期間を健康に行うことができる。

内容

配属校によって違いがあるが概ね次のような流れになる。第1週では学校現場の様子に慣れる。特に、校長、教務など、それぞれの役割についての講話、配属学級の児童を知り、授業を参観する。第2週では担任の補助として、積極的に学級指導にかかわる。授業の担当などが示され、準備にかかるようになる。第3週も同様である。実際に指導案を書き、授業をする。第4週では研究授業に向けて準備をし、実際に研究授業を行う。

評価

出勤状況、教師としての実務能力、教材研究など授業実践に関わる能力、児童に対する態度などについて小学校現場で指導に当たった側の評価、日誌などを総合的に判断する。

授業外学習

【事前予習】実習のための準備

【事後学修】実習の振り返り

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

【推薦書】

【参考図書】

必要に応じて指示する。

科目名	幼稚園教育実習(事前・事後指導を含む)		
担当教員名	岡上 直子、津吹 卓、狩野 浩二、山本 悟 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(J)-児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、幼稚園教諭免許状取得のための必修科目であり、小学校教育実習をあわせて受講する者が履修対象である。

科目の概要

幼稚園教育の基本、幼児の発達の特長、教育実習を行う際の心構え等について学び、他の幼稚園教育専門科目で学んだ内容と、実習園での実習内容とを結合させて教育実習の成果をあげ、教職への認識を確かなものとする。

学修目標(=到達目標)

- ・幼稚園教育の具体的な指導内容・方法について理解する
- ・幼稚園教諭として必要な保育観、知識・技能などを学び、指導力を身に付ける
- ・幼稚園教育と小学校教育の接続について理解する

内容

(1) 事前指導

幼稚園教育の基本となる考え方について学び、課題意識をもって実習に臨めるよう、幼稚園教育の実際について具体的なイメージを広げる。

実習の目的・目標、内容等にかかわるオリエンテーション

幼児の発達の特長理解、観察・記録の方法と実際

幼稚園の教育課程・指導計画の考え方、指導案の作成、

保育内容(指導)と評価、日誌の書き方

実習園におけるオリエンテーション(園長、実習担当の教職員等による)

(2) 総合実習

小学校教諭1種免許状を取得することを前提条件としているので、実習期間は、1週間である。

参加観察実習と責任実習を含む総合実習を連続して行う。

- ・実習日誌を毎日書き、実習園の担当教諭等から指導を受ける。
- ・幼児集団を指導する責任実習(部分・1回)を行う。
- ・実習に当たっては、学級や幼児の実態に即した指導案を作成し、実習園の担当教諭等から指導を受けることとする。

実習園は原則として学校指定の園とする。

(3) 事後指導

学内での実習報告や実習日誌を手がかりとして、幼稚園教育に関する理解を深める。

幼稚園教育の独自性

幼稚園における学びの評価

保育における教師の役割

評価

実習指導園から実習の取り組み状況等に関する評価を受け、それを参考に実習担当教員が評価する。

実習日誌、事前事後指導における取り組み状況や提出物も評価対象となる。

事前事後指導中の取り組み態度及び実習日誌等の提出物を50%、教育実習の勤務状況、実習の取り組み姿勢及び実習園の成績評価等を50%とし、総合的に評価し、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】実習先の教育方針、特性の理解。提示する課題に関する事前調査、情報検索、発表準備（1時間）

【事後学修】学修のまとめとして提示する課題に関するレポートの作成（1時間）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】プリントを配布する

【推薦書】幼少年教育研究所編 「新版 遊びの指導」 同文書院

全国幼児教育研究協会編 「4歳児の遊びアイデア集」 チャイルド

【参考図書】授業の中で、適宜紹介する

科目名	教職実践演習（幼・小）		
担当教員名	山本 悟、狩野 浩二、増田 吉史、岩井 雄一 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

「教職実践演習」は、教職員免許法に定められた必修科目である。教職課程の他の授業科目の履修や学校ボランティア等の様々な活動を通じて、身に付けた資質能力が教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて省察する。このことによって、教員になる上で、何が課題であるのかを自覚し、必要に応じて知識や技能等を補い、教職生活をより円滑にスタートできるようにする科目である。

科目の概要

学校教育の具体的な課題や教育の最新事情と学校が抱える課題を取り上げ、集団討議法や事例研究等を行い、教師としての考え方及び自己のあり方を考察し、自己の考え方を文章、口頭、討論などで表していく活動に取り組む。

学修目標（＝到達目標）

・教職の意義や教員の役割、職務内容、子どもに対する責務等を理解し、遂行できるか。・教員組織における自己の役割や、他の教職員と協力した校務運営に参画し、自己発揮できるか。・個々の子供の特性や状況を把握し、学級集団を維持し機能を発揮させられるか。・教員としての表現力や授業力、子どもの反応を活かした授業づくり、種々の指導方法や指導形態を援用できる。

内容

教職総合演習は、全学年を通じた「学びの軌跡の集大成」として位置付けられる。よって、授業は、講義・演習を通じて、理論と実践を有機的に統合できるよう、問題解決討議法や短縮事例法といった事例研究等を行う。そして、教職生活をより円滑にスタートできるように、教職に対する使命感や責任感、教育的愛情等や、対人関係能力、幼児児童生徒理解や学級経営、教科・保育内容等の指導力に関する事項について、自己省察し、必要な資質・能力をさらに高める。

1	「教職実践演習」のねらいと内容の理解 教育実習での学びと省察
2	子供が「わかる」授業づくりのための方途（教えるということの意味の確認）
3	学級づくりの「はじめの一步」を考究（教育実習での体験から学級づくりとその実際の再現）
4	生き方の指導としての生徒指導・進路指導（生徒指導の機能を活かす教育活動、キャリア教育）
5	子供の「困り感」に即した支援（一人一人の教育的ニーズに応える方途）
6	学習指導の評価と授業改善の方策（学力調査等の結果を踏まえた改善）
7	自他共に大切にすると人権感覚や人権意識の育成（人権教育を進める方策）
8	すべての教師が参画し、保護者・地域社会の期待に応える学校づくり（学校経営への参画）
9	自らのキャリア形成と自己実現に向けて（対人関係能力の高揚、研修と教員のライフステージ）
10	教師に求められる資質・能力の再考（1回から9回までの学修の成果を整理）
11	最新の教育事情と学校の実情を考察1（「ESD＝持続発展教育」のねらいと実際）
12	教育の最新事情と学校の実情を考察2（「21世紀型学力」とアクティブ・ラーニング）
13	教育の最新事情と学校の教育の省察3（次期学習指導要領の構造と内容を踏まえて）
14	「人間と教育」についての問い直し（既習事項を総合し、自らの教育観を陳述）
15	まとめ 「子供観や教育観について、多様な視点に立って教育の意味と役割を論述」

評価

事前課題（小レポート）の評価（30点）、事業を受けての小レポートの評価（30点）、最終の論作等（40点）の総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】前時に事前課題を提示する。課題に答える資料（小レポート）を作成し、これを参考として、集団討議法等に依る学修を進める。

【事後学修】集団討議法や事例研究の成果をもとに、自らの考えや教師・親としての生き方・在り方を小論にまとめ、提出する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】無

【推薦書】佐々木司・三山緑編著『これからの学校教育と教師』（ミネルバ書房）

【参考図書】各回で参考となる資料の配布及び参考図書を提示する。

科目名	体育		
担当教員名	山本 悟、佐藤 典子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼稚園教諭、小学校教諭免許状取得に関する選択必修科目の1つである。体育科の基本的な考え方や授業づくりの基礎を学ぶことをねらいとしている。

科目の概要

運動を教材として扱うため、授業は実技を交えて展開し、小学校で扱う内容を中心に運動技能の向上と運動教材の仕組みを理論的に学ばせる。2名の授業担当者が専門分野を生かしたオムニバス形式で授業を進める。また、体育科の指導法に関する総まとめとして、受講学生が子ども役の仲間を指導する模擬授業も実施する予定である。併せて、児童期（幼児期も含む）の身体的特性や保健衛生の基礎に関する知識を深める。

学修目標

身体を動かすことを楽しみながら、子どもに運動を伝えたり指導したりするための基本的な知識・技能・ノウハウを身につけることをねらいとする。

内容		
1	オリエンテーション、運動会種目の理解と実践	: 山本、佐藤
2	鉄棒運動（ダルマ回り）、陸上運動（ハードル走 : 跳び方のコツを探る）	: 山本
3	鉄棒運動（腕立て後転）、陸上運動（ハードル走 : チーム対抗の競走）	: 山本
4	鉄棒運動（腕立て前転）、陸上運動（リレー競技の工夫と教材研究）	: 山本
5	器械運動（マット運動：側転、跳び箱運動：開脚とび、台上前転）	: 山本
6	ネット型ボール運動（ソフトバレーボール：基本技能の練習、簡易ゲームの進め方）	: 佐藤
7	ネット型ボール運動（プレルボール：基本技能とゲームの進め方の理解）	: 佐藤
8	表現運動（リズムダンスとその工夫）	: 佐藤
9	表現運動（創作活動と発表会）	: 佐藤
10	模擬授業（授業づくりと指導案作成の復習、ビデオ映像から学ぶ授業技術とポイント）	: 山本
11	模擬授業（マット運動、なわとび運動を題材にした模擬授業と振り返り、評価）	: 山本
12	模擬授業（前転ボール捕り、跳び箱運動を題材にした模擬授業と振り返り、評価）	: 山本
13	ゴール型ボール運動（ボールを持たない動きの理解とその指導法）	: 佐藤
14	ゴール型ボール運動（ドリルゲームとタスクゲームの実践：バスケットを題材に）	: 佐藤
15	ゴール型ボール運動（コーンボール、フリスビーを使った教材の工夫とその指導）	: 佐藤

評価

平常点（授業への取り組みで評価：運動量、協働性、意欲と関心）60点、模擬授業の発表およびレポート40点として、総合的に評価する。また、合格点60点に満たなかった場合は再試験を行う。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の講読。プレゼン活動の準備とレジュメ作成（学習指導案）。

【事後学修】授業ノートおよび配付資料の整理。授業で紹介した推薦書の自主的講読。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 文部科学省 「小学校学習指導要領解説 体育編」 東洋館出版社（平成20年度）

【推薦書】 筑波大学附属小学校体育部 編 「子どもが力をつける体育授業」 不昧堂出版

科目名	体育		
担当教員名	山本 悟、佐藤 典子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

幼稚園教諭、小学校教諭免許状取得に関する選択必修科目の1つである。体育科の基本的な考え方や授業づくりの基礎を学ぶことをねらいとしている。

科目の概要

運動を教材として扱うため、授業は実技を交えて展開し、小学校で扱う内容を中心に運動技能の向上と運動教材の仕組みを理論的に学ばせる。2名の授業担当者が専門分野を生かしたオムニバス形式で授業を進める。また、体育科の指導法に関する総まとめとして、受講学生が子ども役の仲間を指導する模擬授業も実施する予定である。併せて、児童期（幼児期も含む）の身体的特性や保健衛生の基礎に関する知識を深める。

学修目標

身体を動かすことを楽しみながら、子どもに運動を伝えたり指導したりするための基本的な知識・技能・ノウハウを身につけることをねらいとする。

内容			
1	オリエンテーション、運動会種目の理解と実践		: 山本、佐藤
2	ネット型ボール運動（ソフトバレーボール：基本技能の練習、簡易ゲームの進め方）		: 佐藤
3	ネット型ボール運動（プレルボール：基本技能とゲームの進め方の理解）		: 佐藤
4	表現運動（リズムダンスとその工夫）		: 佐藤
5	表現運動（創作活動と発表会）		: 佐藤
6	鉄棒運動（ダルマ回り）、陸上運動（ハードル走 : 跳び方のコツを探る）		: 山本
7	鉄棒運動（腕立て後転）、陸上運動（ハードル走 : チーム対抗の競走）		: 山本
8	鉄棒運動（腕立て前転）、陸上運動（リレー競技の工夫と教材研究）		: 山本
9	器械運動（マット運動：側転、跳び箱運動：開脚とび、台上前転）		: 山本
10	ゴール型ボール運動（ボールを持たない動きの理解とその指導法）		: 佐藤
11	ゴール型ボール運動（ドリルゲームとタスクゲームの実践：バスケットを題材に）		: 佐藤
12	ゴール型ボール運動（コーンボール、フリスビーを使った教材の工夫とその指導）		: 佐藤
13	模擬授業（授業づくりと指導案作成の復習、ビデオ映像から学ぶ授業技術とポイント）		: 山本
14	模擬授業（マット運動、なわとび運動を題材にした模擬授業と振り返り、評価）		: 山本
15	模擬授業（前転ボール捕り、跳び箱運動を題材にした模擬授業と振り返り、評価）		: 山本

評価

平常点（授業への取り組みで評価：運動量、協働性、意欲と関心）60点、模擬授業の発表およびレポート40点として、総合的に評価する。また、合格点60点に満たなかった場合は再試験を行う。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の講読。プレゼン活動の準備とレジュメ作成（学習指導案）。

【事後学修】授業ノートおよび配付資料の整理。授業で紹介した推薦書の自主的講読。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 文部科学省 「小学校学習指導要領解説 体育編」 東洋館出版社（平成20年度）

【推薦書】 筑波大学附属小学校体育部 編 「子どもが力をつける体育授業」不昧堂出版

科目名	社会		
担当教員名	廣坂 多美子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択,選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

教科科目の1つである「社会」が学校教育の中で、どのような分野を担当しているのか、その位置づけと社会科の目標及び内容の全体を把握し理解するものである。

科目の概要

- ・社会科は、「地理的分野」「歴史的分野」「公民的分野」と大きく3つに分かれるが、各分野で取り上げられる事象（学習内容や項目）についていくつか事例的に取り上げ、その内容について考察する。
- ・社会科における資料の取扱いや活用について考察する。

学修目標

- ・小学校教育の中における教科としての「社会」の意義や役割、目標について理解を深める。
- ・社会科の学習内容の主なものについて事例的に取り上げ、理解を深める。

内容

- 1 ガイダンス 小学校社会科の変遷 社会科の目標と主な内容
- 2 教科としての社会科の意義
- 3 中学年社会科の学習内容 3学年・4学年
- 4 高学年社会科の学習内容 5学年・6学年
- 5 社会科学習における地理的内容（1）
- 6 社会科学習における地理的内容（2）
- 7 社会科学習における図表の活用（1） 地図の見方・活用の仕方
- 8 社会科学習における図表の活用（2） 地形図の活用の仕方
- 9 社会科学習における歴史的内容（1）
- 10 社会科学習における歴史的内容（2）
- 11 社会科学習における公民的内容（1）
- 12 社会科学習における公民的内容（2）
- 13 社会科学習の事例（1）
- 14 社会科学習の事例（2）
- 15 まとめ

評価

課題レポートなどの提出物60点、授業への取り組み（授業のまとめ、小テスト等）40点、とし

総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】授業前に、都道府県名と地図上の位置、年代とその時代の人物のつながりをそれぞれの授業内容に合わせて準備し、理解しておく。

【事後学修】その時間に学習した内容を、学年に沿ってまとめておく。毎時間30分。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

- ・ 小学校学習指導要領解説（社会編） 平成20年8月 文部科学省 東洋館出版社

【参考図書】

- ・ 小学校学習指導要領 平成20年3月 文部科学省 東京書籍

科目名	理科		
担当教員名	津吹 卓		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

選択科目だが、3年の初等理科教育につながるので、履修が望ましい。

科目の概要

理科を学ぶとはどのようなことかを、観察や実験を通して体験的に学ぶ。大学生になるまでに多くの学生が抱いてしまった理科に対しての間違ったイメージを、素直な気持ちで理科に取り組むことで払拭できればと思う。とくに植物の観察は、キャンパスに生えている地域の身近な種類を半年間見続けることで、植物がどのように生きており変化するのかを体感する。

学修目標 (= 到達目標)

白紙に戻り童心に帰って、これまでの苦手意識や知識・理解は気にしないで観察・実験に素直に向き合う。そして疑問や不思議なこと・意外なことに気づき、自分の頭で「なぜだろうと」考える体験をする。ただ正解を覚えるのではなく、ナゾを解こうと素直に考える中で、習っていないなくても考えると分かるという学びの喜びが感じられ、本来の理科が見えてくる。

内容

基本はアドバイスをするが、観察・実験等は自主的に考えて進めてもらう。最も大切なことは、正解とか成功ではなく、観察や実験の結果から何が起きたのかを考えて理解し納得することである。理科を楽しもう。なお、下記の予定は季節や皆さんの状況により変化する。

授業時間外にも、発芽実験をし、また植物の変化を春から夏まで眺めてもらう。

1	理科教育とは何か、理科を教える上で学生にとって何が問題なのかを話し合う
2	観察：自然を知るとはどのようなことか
3	春の植物観察：観察方法の工夫
4	春の植物観察：観察のまとめ
5	春の植物観察：観察の発表
6	春の植物観察：観察の発表
7	実験：化学系
8	実験：化学系
9	実験：生物・化学系
10	実験：物理系
11	実験：物理系
12	夏の植物観察：観察方法のレベルアップと春からの成長の流れ

13	夏の植物観察 : 植物の春から夏への変化の発表
14	夏の植物観察 : 植物の春から夏への変化の発表
15	まとめ

評価

実験毎のワークシート40%，植物観察・発芽のレポート40%，筆記試験20%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】キャンパスの植物は継続観察し意味を考え続ける。発表の構成の話し合い。

【事後学修】ワークシート記入・大きなレポートの作成・疑問の解消と内容の納得。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

【推薦書】特になし

【参考図書】文部科学省 小学校学習指導要領解説 理科編

科目名	理科		
担当教員名	津吹 卓		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

選択科目だが、3年の初等理科教育につながるので、履修が望ましい。

科目の概要

理科を学ぶとはどのようなことかを、観察や実験を通して体験的に学ぶ。大学生になるまでに多くの学生が抱いてしまった理科に対しての間違ったイメージを、素直な気持ちで理科に取り組むことで払拭できればと思う。とくに植物の観察は、キャンパスに生えている地域の身近な種類を半年間見続けることで、植物がどのように生きており変化するのかを体感する。

学修目標 (= 到達目標)

白紙に戻り童心に帰って、これまでの苦手意識や知識・理解は気にしないで観察・実験に素直に向き合う。そして疑問や不思議なこと・意外なことに気づき、自分の頭で「なぜだろうと」考える体験をする。ただ正解を覚えるのではなく、ナゾを解こうと素直に考える中で、習っていないなくても考えると分かるという学びの喜びが感じられ、本来の理科が見えてくる。

内容

基本はアドバイスをするが、観察・実験等は自主的に考えて進めてもらう。最も大切なことは、正解とか成功ではなく、観察や実験の結果から何が起きたのかを考えて理解し納得することである。理科を楽しもう。なお、下記の予定は季節や皆さんの状況により変化する。

授業時間外にも、発芽実験をし、また植物の変化を春から夏まで眺めてもらう。

1	理科教育とは何か、理科を教える上で学生にとって何が問題なのかを話し合う
2	観察：自然を知るとはどのようなことか
3	春の植物観察：観察方法の工夫
4	春の植物観察：観察のまとめ
5	春の植物観察：観察の発表
6	春の植物観察：観察の発表
7	実験：化学系
8	実験：化学系
9	実験：生物・化学系
10	実験：物理系
11	実験：物理系
12	夏の植物観察：観察方法のレベルアップと春からの成長の流れ

13	夏の植物観察 : 植物の春から夏への変化の発表
14	夏の植物観察 : 植物の春から夏への変化の発表
15	まとめ

評価

実験毎のワークシート40%，植物観察・発芽のレポート40%，筆記試験20%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】キャンパスの植物は継続観察し意味を考え続ける。発表の構成の話し合い。

【事後学修】ワークシート記入・大きなレポートの作成・疑問の解消と内容の納得。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

【推薦書】特になし

【参考図書】文部科学省 小学校学習指導要領解説 理科編

科目名	家庭		
担当教員名	勝田 映子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の生活

小学校教諭免許状を取得するための必須科目である。

科目の概要

小学校で扱う内容を中心に衣食住を中心とした家庭生活に関する知識・技能の修得を図る。また児童の実態を基に生活に関わる今日的課題も扱う。授業は個人の生活における課題追究のほか、グループによる実践的体験的な活動を中心に行う。また、児童が行う調理実習や被服製作の一端にも触れ理解を深める。デジタルカメラの活用法やポスターセッションなど多様な指導方法についても扱う。

学修目標

- ・ 小学校家庭科で扱う衣食住に関する基礎的な知識・技能の内容を理解し、説明することができる。
- ・ 小学校家庭科で扱う基礎的な技能を活かして簡単な調理や布を用いた製作を行うことができる。
- ・ 今日の児童や家庭生活の実態を把握し、家庭科を学ぶ意義を自分の言葉で説明することができる。

内容

1、家庭科教育で何を学ぶのか

本授業の計画と評価、個人で準備するものなどのガイダンス

自分の家庭生活を振り返る。生活レポートの提出についての説明。

家庭科で育てる力、家庭科の歴史と内容領域 - なぜ学校で家庭科を学ぶのか -

2、小学校家庭科の主な学習内容

衣食住家族生活等の領域の主な内容を解説し、簡単な実践や実習を行う。

家族との生活 (ロールプレイングをグループで制作し発表する。)

食物と栄養、栄養素とそのはたらき (グループで栄養素の紙芝居、カルタ作り)

食生活の見直し、一食分の献立作り

調理の基礎 1 - ゆでる・いためる調理の科学

調理の基礎 2 - 米飯と味噌汁の調理の科学

調理実習 (デジタルカメラの活用法も)

情報と消費社会 (児童をめぐる情報・消費生活の実態。消費者教育) (ポスターセッション)

快適な住まい方 生活と環境

手縫いの基礎技能

生活に役立つ物の製作

3、これからの家庭生活について

学習のまとめ これからの家族と家庭生活

できるだけ実践的・体験的な活動を取り入れる。

実習室使用の関係で順序が入れ替わることがある

評価

生活レポート10%、毎回課題レポート75%、作品15%程度とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】生活に関する情報に関心を持ち、テーマを決めて資料を使って調べておく。

【事後学修】講義内容に関するノート、資料の整理。次時の課題の準備。課題図書ならびに小学校家庭科教科書や学習指導要領解説（家庭科編）を読んでおく。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】小学校家庭科教科書『新しい家庭5・6』（東京書籍） 小学校学習指導要領解説（家庭編）

【推薦書】『できますか？教えられますか？家庭科の基本』流田直監修・勝田映子他著（学研教育みらい）

【参考図書】『子どものよさを活かす家庭科授業 - 出会う・かかわる・つくり出す-』勝田映子著（筑波叢書）他授業内で紹介提示する。

科目名	特別支援教育指導法		
担当教員名	阿子島 茂美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

L D ・ A D / H D ・ 言語障害 ・ 情緒障害の障害特性及び心理学的特徴について基礎的な知識を学び、個々の教育的ニーズに応えることができる。

科目の概要

実際の授業に活かせるようなアセスメント、指導計画や指導案の作成について実践的に授業を進める。実践例、グループによる調査、報告、ロールプレイを通して実際の・実践的に学ぶ。

学修目標 (= 到達目標)

児童・生徒に合わせた指導法の理解を深める。アセスメントに基づき、指導案・指導形態・教材等の作成などができる。

内容

第1回：発達障害 (言語障害 ・ 情緒障害 ・ L D ・ A D / H D 等) の理解

第2回：L D の理解

第3回：A D / H D の理解

第4回：高機能自閉症等の理解

第5回：アセスメントの基礎

第6回：心理検査法 < W I S C K - A B C >

第7回：学力のアセスメント

第8回：読み・書きの指導

第9回：算数の指導

第10回：言語・コミュニケーションの指導

第11回：個別の指導計画の作成と実践

第12回：学校における支援体制：通常学級における支援

第13回：学校における支援体制：コーディネーターの役割

第14回：社会的自立・就労の問題

第15回：保護者との連携・地域との連携 : まとめ

評価

試験による評価 (70%) 中間レポートによる評価 (20%) 平常の参加度の評価 (10%) とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】各障害の定義・特徴・支援方法を調べておく。

【事後学修】講義内容をボランティアなどの体験を通し、教育現場で役に立つようにまとめる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しません。

【推薦書】特別支援の理論と実践 金剛出版

【参考図書】ADHDのペアレントトレーニング むずかしい子にやさしい子育て
シンシア・ウィットム 明石書房

自閉症ガイドブック シリーズ1 乳幼児編 社団法人 日本自閉症協会

自閉症ガイドブック シリーズ2 学齢期編 社団法人 日本自閉症協会

自閉症ガイドブック シリーズ3 思春期編 社団法人 日本自閉症協会

科目名	特別支援教育指導法		
担当教員名	阿子島 茂美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

L D ・ A D / H D ・ 言語障害 ・ 情緒障害の障害特性及び心理学的特徴について基礎的な知識を学び、個々の教育的ニーズに応えることができる。

科目の概要

実際の授業に活かせるようなアセスメント、指導計画や指導案の作成について実践的に授業を進める。実践例、グループによる調査、報告、ロールプレイを通して実際の・実践的に学ぶ。

学修目標 (= 到達目標)

児童・生徒に合わせた指導法の理解を深める。アセスメントに基づき、指導案・指導形態・教材等の作成などができる。

内容

第1回：発達障害 (言語障害 ・ 情緒障害 ・ L D ・ A D / H D 等) の理解

第2回：L D の理解

第3回：A D / H D の理解

第4回：高機能自閉症等の理解

第5回：アセスメントの基礎

第6回：心理検査法 < W I S C K - A B C >

第7回：学力のアセスメント

第8回：読み・書きの指導

第9回：算数の指導

第10回：言語・コミュニケーションの指導

第11回：個別の指導計画の作成と実践

第12回：学校における支援体制：通常学級における支援

第13回：学校における支援体制：コーディネーターの役割

第14回：社会的自立・就労の問題

第15回：保護者との連携・地域との連携

評価

試験による評価 (70%) 中間レポートによる評価 (20%) 平常の参加度の評価 (10%) とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】各障害の定義・特徴・支援方法を調べておく。

【事後学修】講義内容をボランティアなどの体験を通し、教育現場で役に立つようにまとめる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しません。

【推薦書】特別支援の理論と実践 金剛出版

【参考図書】ADHDのペアレントトレーニング むずかしい子にやさしい子育て
シンシア・ウィットム 明石書房

自閉症ガイドブック シリーズ1 乳幼児編 社団法人 日本自閉症協会

自閉症ガイドブック シリーズ2 学齢期編 社団法人 日本自閉症協会

自閉症ガイドブック シリーズ3 思春期編 社団法人 日本自閉症協会

科目名	学校関係法規特別講義		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年		ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

科目の概要

学修目標（=到達目標）

内容	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	まとめ

評価

とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】

【事後学修】

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

【推薦書】

【参考図書】

科目名	学校関係法規特別講義		
担当教員名	黒瀬 任通		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目は、児童教育学科の「専門科目」の「教育理論及び実践の応用に関する科目」であり、「選択科目となっている。

科目の概要

この科目は、1年次の「学校関係法規」の学修を踏まえている。

さらに、学校現場で実際に行われている学校管理・学校運営や教育指導等の実際の中で、どのような法律や規則が、どのように関わっているのかを、具体的な事例を通して追究していく。

学修目標（＝到達目標）

- 1 学校教育は、多くの法律・規則等を基盤にして成り立っていること・運営されていることなどを、具体的に理解する。
- 2 学修を通して、学校教育に関して法規に基づいた自分の考えや意見を持ち、学校教育に対する自己の視野をさらに広げる。

内容

1	ガイダンス。 法治国家、憲法・教育基本法及び教育関係法規等の関連について
2	教育の目的、義務教育の目標等に関する法規
3	児童生徒の就学等に関する法規
4	児童生徒の保健・安全等に関する法規
5	教育課程等に関する法規
6	学級編制等に関する法規
7	学校管理等に関する法規
8	学校運営等に関する法規
9	学校の組織・運営等に関する法規
10	教職員の身分等に関する法規。 教育行政等に関わる法規
11	教職員の服務等に関する法規
12	教員の研修等に関する法規
13	教員免許等に関わる法規
14	教員の勤務条件等に関わる法規
15	まとめ

評価

授業への参加度（取り組み）30%、小まとめ・小テスト等20%、筆記試験50%などに

より総合的に評価するものとし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

- 【事前予習】 使用する『必携 学校小六法』を活用し、主要法規等に目を通しておくと共に、インデックスなどを付け、引きやすくなるようにしておく。
- 【事後学修】 授業で使用したノート・資料などや学修した法令などを、再度見直す取り組みをする。授業で学修した内容に関連した事例問題や過去出題問題などに取り組む。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【教科書】 『必携 学校小六法』 若井 彌一 監修 共同出版
- 【推薦書】 「図解・表解 教育法規」 坂田 仰 ・ 河内 祥子 外 共著 教育開発研究所
- 【参考図書】 「教育法規便覧」 窪田 眞二 小川 友次 著 学陽書房

科目名	表現活動概論		
担当教員名	久保田 葉子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、教育職員免許法に定められた「教科又は教職に関する科目」の一つで、選択科目です。
3年生を対象とし、これまでに「表現活動」を選択した学生も、まだ経験していない学生も歓迎します。

科目の概要

朗読・歌・身体表現からなる作品に取り組みます。クラス内で総合表現の作品を創り上げるだけでなく、発表の機会を持つことと、部分的に他学年(2年生)と混合での取り組みも目指します。

表現活動を履修したことのある学生は、今度は指導する立場になったことをイメージしながら、さらに作品と表現を研究することができます。

学修目標 (= 到達目標)

教師を目指す学生にとって「声」と「表現力」は大切です。

- ・全身を使って、豊かで表情のある声を自分の中から引き出すこと
- ・作品を味わい、イメージをふくらませていく過程を体験すること
- ・仲間と考えをぶつけ合い、磨き合う関係を築くこと
- ・練習を通して得たものを人に伝える喜びを知ること

これがこの講座の目標です。

内容	
1	作品と出会う
2	歌の練習を中心に 1 脱力
3	朗読の練習を中心に 1 呼吸法
4	重唱の練習を中心に 1 ハーモニーの愉しみ
5	歌の練習を中心に 2 作品解釈
6	朗読の練習を中心に 2 声の表情・表現
7	重唱の練習を中心に 2 互いに聴くこと
8	身体表現を考える 1 身体の意識
9	身体表現を考える 2 構成・他者との関わり
10	表現活動の指導法を考える 1 言葉の重要性
11	表現活動の指導法を考える 2 見ること・聴くこと
12	他学年との取り組み 1 教師の表現力
13	他学年との取り組み 2 共に学ぶ
14	発表
15	まとめ

教材解釈30% / 表現力30% / 試験（レポート）40%とし、総合評価60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前予習】身の回りの自然や、日頃接している人に関心を持ち、よく観察すること。

【事後学修】本を読み、音楽などの文化に触れる機会をできるだけ多く持つこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教室で配布します。

【推薦書】斎藤喜博『授業』（国土社）、竹内敏晴『声が生まれる 聞く力・話す力』（中公新書）

【参考図書】横須賀薫編『授業研究用語辞典』（教育出版）

その他必要に応じて日本地図、植物・動物・昆虫図鑑

科目名	表現活動（基礎）		
担当教員名	狩野 浩二、久保田 葉子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

この科目は、教育職員免許法に定められた「教科又は教職に関する科目」の一つであり、選択科目です。小学校・中学校・幼稚園などの先生になりたいと思う学生の皆さんが選択必修科目として受講することを想定して開設しました。

この時間には、総合表現活動（朗読や歌、からだで表すことなどを組み合わせた活動）のために創作された作品（斎藤喜博 / 詩、近藤幹雄 / 曲）「利根川」に取り組む予定です。

練習の様子によっては、近くの小学校などに出向いて、児童や先生方に見てもらう会を持ちたいと思っています。また、夏に行われる免許状更新講習や新座市3年経験者教員研修会においても、発表する機会を持ちます。

みんなで歌ったり、朗読したり、からだを動かしたりすることにより、心をひらいて誰とでも楽しく交流できるような力をつけることを目的にします。そして、子どもたちの表現活動を指導する際の技術についても、同時に紹介します。

仲間同士で協力し合い、作品を仕上げること、心をひらき、実感を込めて表現すること、作品の解釈を持ち、イメージ豊かに表現すること、などが目標です。

内容

以下、取り上げる内容について列記します（順不同）。

第1回目の時に、取り上げる作品などについて説明します。

1. 教師の表現力 脱力、呼吸法
2. 教師の表現力 声
3. 教師の表現力 朗読
4. 表現活動の指導 呼吸法
5. 表現活動の指導 行進
6. 表現活動の指導 ステップ
7. 表現活動の指導 身体表現
8. 表現活動の指導 集団朗読
9. 表現活動の指導 総合表現
10. 表現活動の指導 オペレッタ
11. 表現活動の指導 歌唱、合唱
12. 表現活動の指導 演出と構成
13. 表現活動の指導 子どもの表出をとらえる
14. 表現活動の指導 まとめ
15. まとめ

評価

毎時間の取り組み（ 協調性20点、 主体性20点、 教材解釈20点、 表現力20点、 創造性20点 ）とし、総合して評価します。60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前予習】歌唱や朗読の練習をします。特に腹式呼吸法の練習を毎日しましょう。

【事後学修】講義中の練習を踏まえて、歌唱や朗読の練習をします。振り返りのレポートを最後に作成します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教室で随時資料を配付します。

【推薦書】横須賀薫他編著 『心をひらく表現活動（1）～（3）』 教育出版

【参考図書】梶山正人 『かたくりの花』 一莖書房

梶山正人 『子どものためのオペレッタ1.2』 一莖書房 他、教室で随時紹介します。

科目名	表現活動（応用）		
担当教員名	狩野 浩二		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

この科目は、教育職員免許法に定められた「教科又は教職に関する科目」の一つであり、選択科目です。小学校・中学校・幼稚園などの先生になりたいと思う学生の皆さんが選択必修科目として受講することを想定して開設しました。

この時間には、総合表現活動（朗読や歌、からだで表すことなどを組み合わせた活動）のために創作された作品「かたくりの花」 横須賀薫・詩、梶山正人・曲 に取り組む予定です。

練習の様子によっては、近くの小学校などに出向いて、児童や先生方に見てもらう会を持ちたいと思っています。

みんなで歌ったり、朗読したり、からだを動かしたりすることにより、心をひらいて誰とでも楽しく交流できるような力をつけることを目的にします。そして、子どもたちの表現活動を指導する際の技術についても、同時に紹介します。

仲間同士で協力し合い、作品を仕上げること、心をひらき、実感を込めて表現すること、作品の解釈を持ち、イメージ豊かに表現すること、などが目標です。表現活動概論（3年後期）の受講生がみなさんを指導する場面をつくります。先輩たちとともに、表現活動の指導法について学びあって欲しいと思います。

内容

以下、取り上げる内容について列記します（順不同）。

前期において「表現活動（基礎）」を受講した人がいた場合には、内容が変わります。

下記は一般的な内容です。実際には、参加メンバーに応じて変更します。

1. 教師の表現力 脱力、呼吸法
2. 教師の表現力 声
3. 教師の表現力 朗読
4. 表現活動の指導 呼吸法
5. 表現活動の指導 行進
6. 表現活動の指導 ステップ
7. 表現活動の指導 身体表現
8. 表現活動の指導 集団朗読
9. 表現活動の指導 総合表現
10. 表現活動の指導 オペレッタ
11. 表現活動の指導 歌唱、合唱
12. 表現活動の指導 演出と構成
13. 表現活動の指導 子どもの表出をとらえる
14. 表現活動の指導 まとめ
15. まとめ

評価

毎時間の取り組み（ 協調性20点、 主体性20点、 教材解釈20点、 表現力20点、 創造性20点 ）を総合し

て評価します。

授業外学習

【事前予習】歌唱や朗読の練習をします。腹式呼吸法の練習を毎日します。

【事後学修】講義中の課題を踏まえて、更に朗読や歌唱表現の練習をします。最終発表会のあとで、振り返りのレポートを作成します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教室で随時資料を配付します。

【推薦書】横須賀薫他編著 『心をひらく表現活動（1）～（3）』 教育出版

【参考図書】梶山正人 『かたくりの花』 一莖書房

梶山正人 『子どものためのオペレッタ1.2』 一莖書房 他、教室で随時紹介します。

科目名	学習指導と学校図書館		
担当教員名	紺野 順子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	司書教諭 / 高等学校教諭一種免許状 (情報) / 中学校教諭一種免許状 (社会) / 高等学校教諭一種免許状 (公民) / 高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 幼稚園教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉) / 小学校教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (家庭) / 中学校教諭一種免許状 (家庭) / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

司書教諭課程は「学校図書館」そのものについて学ぶ科目と、司書教諭として児童生徒に対する「指導法」を学ぶ科目に大別できる。本講は児童生徒の「メディア活用能力育成のための指導」の具体的な方法を学ぶ科目である。学習情報センターとしての学校図書館機能を発揮する上で、司書教諭 5 科目のうち最も中核的な科目である。

科目の概要

学校図書館は児童生徒の日々の学習活動、および教員の教育活動を支援し推進するという重要な任務を持っている。学校図書館の積極的・効果的な利用を図る上で、児童生徒に対し、図書館および各種メディアを活用し、自主的な学習能力・態度を育成するための指導が必要である。そのための指導原理と方法を具体的に・実践的に体得し、あわせて教員に対する支援と協力についての理解を深める。

学修目標

- 1) 学習活動における学校図書館の役割と機能を理解する。
- 2) 学校図書館の各種メディアの特性と活用方法を体得する。
- 3) 指導内容の具体的な理解を図る。
- 4) 児童生徒の発達段階に応じた指導計画とその展開方法を理解する。
- 5) 教員の教育活動への支援方法を考える。

内容

1	教育課程の展開と学校図書館の役割
2	主体的学習とメディア活用能力
3	メディア活用能力育成指導の内容と指導計画
4	指導内容の探索 (図書館での演習)
5	指導内容の具体的検討
6	指導内容の確認と確定 (発表・討議)
7	指導計画作成のための原理
8	指導内容の体系化 (グループ討議)
9	指導内容の体系化 (討議結果の発表)
10	メディア活用能力育成指導の年間計画作成
11	メディア活用能力育成指導の方法
12	特定学年の 1 単位時間内での指導案作成
13	集団指導・個別指導の意義とその展開
14	メディア活用能力育成の個別指導と情報サービス
15	教員に対する支援と働きかけ

評価

課題についての調査および発表30%、メディア活用能力育成指導のための指導案作成40%、理解度確認のための論述レポート30%

授業外学習

【事前予習】毎回、授業に関する課題を指示する。次回までに、図書館を使って調査実習しまとめておくこと。授業時に発表および提出してもらう。

【事後学修】毎回、その日の授業のまとめ、考えを記すフィードバックシートの配布、または授業に関する課題を指示する。次回までに取り組み提出してもらう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業時に必要に応じて資料・プリントを配布する。

科目名	学級経営と教科指導		
担当教員名	小城 正重		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

学級は、児童にとって所属することを拒否できない運命集団であり、一日の大半を過ごす場である。学級担任として、各々の児童が学校生活に展望が持てる指導のあり方を考察する。学級経営の基盤は教科の指導においてない。現場の教師が作成した具体的な資料をもとに、学校現場に密着した実践的な考察をする。担任として、自信を持って児童や保護者に接することができるようにしていく。児童の身になり共感的に考え、共に生きようとする人間的な教員の姿を求める。問題解決力を身につけ、多様化する子どもや保護者達に適切に対応できる力を育成する。

内容

1	学校教育目標の実現を目指し学級指導目標実現のための具体的方策の立案。教育実習について
2	学級教育目標設定の手順の例。教育実習生として心掛けること、気をつけること
3	学級経営案の作成 (学級目標、学級経営方針、学級の実態把握)
4	学級経営の計画 (教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間の指導)
5	学級経営の計画 (生徒指導、健康安全指導、教室環境づくり、家庭との連携)
6	学級経営の計画 (学級事務の処理、学級経営の評価、参加したくなる授業参観・懇談会)
7	各種表簿、観察を通じて、児童生徒の健全育成や学校生活の充実を図る。
8	学力の特徴や傾向、得意教科や不得意教科、つまずきなど実態の把握方法
9	教室の物的環境の整備と管理、毎日の生活や学習活動のよりよい環境構成
10	学習評価、諸表簿作成などの事務処理の実際
11	学級経営に関する保護者への通知、学級通信や懇談会等での連携の方法
12	学級の実態のとらえ方
13	学級集団の特性や傾向をつかむ (さまざまな問題への対処の仕方)
14	家庭および地域の様子の把握
15	振り返りとまとめ

評価

提出物 (20%)、小テスト (30%)、試験 (30%)、学習態度・積極性・発言等 (20%) によって総合的に評価する。
60点以上を合格とする。

授業外学習

- 【事前予習】指定した教科書を事前に読んでおくこと。
- 【事後学修】授業で学んだことを整理し、理解を深めておくこと。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】

著者名 小城 まさえ

書名 クラスづくり12か月

出版社名 学研

【推薦書】

なし

科目名	教職発展演習		
担当教員名	山本 悟、津吹 卓、狩野 浩二、増田 吉史 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

小学校教育の現状や課題を把握し、教育に対する考えを深める。体験活動については、集団宿泊行事の模擬指導を通して、学校教育における実践的な資質、能力、知識、方法論を理解する。

科目の概要

講義を受けるとともに、主体的に事例を調べ発表し合う中で、理解を深め表現力を高める。前期を集中授業の扱いとして、集団宿泊行事における体験活動を実施して体験学習の進め方や配慮事項を学ぶ。後期は教職に関する現実的な課題を中心に学習指導や子どもとの接し方などについて、学校ボランティア活動(インターンシップ)の実践をもとに理解を深める。さらに、すぐれた教育実践報告を題材に学びを深めて授業づくりの素地を養う。

学修目標 (= 到達目標)

次の3点を授業のめあてとする。

- ・ 宿泊を伴う校外学習の進め方、配慮事項を体験的に学び、基礎基本を修得する。
- ・ 学習活動や子どもとの接し方に関する諸問題に関心を持ち、その現状を調べて教職に関する自分なりの考えを整理する。
- ・ バスセッション等を用いた討論の進め方を身につけ、自分の意見を発表できるようになる。

内容

前 期

- 1 回目 オリエンテーション。年間活動計画と自然体験活動の内容の確認。学校ボランティア活動のガイダンス説明 (1 ~ 3 年生合同) : 担当者全員
- 2 回目 集団宿泊的行事の位置づけ、指導方法、生活指導、安全管理等を調べる。 : 山本
- 3 回目 集団宿泊的行事の進め方の確認、班編成 : 山本
- 4 ~ 6 回目 集団宿泊的行事の計画書作成 : 山本
- 7 回目 集団宿泊的行事の事前指導 (しおりをもとに発表活動) : 山本
- 8 ~ 1 5 回目 : 担当者全員

現地 (群馬県) での体験活動と模擬指導 (9 月 2 ~ 4 日実施予定)

- ・ 宿泊を伴う行事の運営と安全管理、生活指導と健康管理
- ・ 体験活動 : 登山、ハイキング、野外炊事、キャンプファイアー等
- ・ 移動の交通機関での安全管理

後 期 :

- 1 ~ 3 回目 集団宿泊的行事の実践報告、まとめ : 山本
- 4 回目 学校ボランティア活動の報告会 (1 ~ 3 年生合同) : 担当者全員
- 5 ~ 1 4 回目

学習指導要領および学校ボランティア活動の実践より課題を設定し、バスセッション等による討議や意見交換を通して教職に関わる基本的な知識や技能の理解を深める。

- ・学校ボランティア活動の振り返りと発表活動：津吹、狩野（5～7回）
- ・すぐれた教育実践から学ぶ（授業づくりの素地を深める）：狩野、山本（8～11回）
- ・最新教育問題を考える（新学習指導要領の改訂に向けて）：津吹、山本（12～14回）

15回目 まとめ（学校ボランティア活動の最終報告会：1～3年生合同）：担当者全員

評価

前期：集団宿泊行事の計画書作成や模擬指導および発表活動（50点）、後期の発表活動とレポート（50点）によって総合的に評価し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の講読。集団宿泊的行事の計画書作成、各プレゼン活動の準備と発表資料作成。

【事後学修】授業で紹介した推薦書、参考図書の自主的講読。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】文部科学省「小学校学習指導要領」（平成20年度版）

文部科学省「小学校学習指導要領解説 特別活動編」（平成20年度版）

【推薦書】【参考図書】授業の中で適宜、紹介する。

科目名	教職応用演習		
担当教員名	宮川 保之、増田 吉史、綾井 桜子、岡上 直子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

教育職員免許法に基づき、児童教育学科の専門科目」の肉「教育の理論及び実践の応用に関する科目として開設されます。

科目の概要

4年生で履修する「教育応用実習J」を効果的に実践できるよう、教職に就くための資質・能力を伸ばし、即戦力として活躍できる教員となるための基礎を身に付ける。このため、これからの社会で求められる人材像を踏まえた学校教育を展開する方途や、学校における諸課題への的確な対応方策等について学修する。また、教員として社会からの尊敬・信頼を受け、幼児・児童の思考力・判断力や表現力等を育成する実践的指導力を身に付ける。さらに、困難な課題に同僚と協働し、地域と連携して対応する実践的な指導力を身に付ける。また、教育の最新事情や教育仮題の解決を意図した演習を行い、各自が児童観や指導観、教育観を明確にしていく。

学修目標 (= 到達目標)

教科指導、生徒指導、学級経営等の職務を的確に実践できる力を身に付ける。学力向上、豊かな心を育成するための応用力を身に付ける。いじめ・暴力行為・不登校等生徒指導上の諸課題を早期に把握し、警察等の関係機関と連携するなどして、的確に対応できる指導力を身に付ける。場自分の考えを文章や言葉などで表現したり、他者と巧くコミュニケーションしたりできる表現力等を高める。

内容

学校ボランティア・インターンシップ等の円滑な実施と省察を行うために、第2回目と第13回目に、1から3年生まで合同で学習指導補助等の計画立案とその確認や省察を行う。他の回においては、下記回毎の教育課題の背景や解決策を見出す作業を行う。その際には、学校体験によって得た知識や技能を活かし、学習指導や生徒指導の実践的な指導力を高める演習(問題解決討議や事例研究)を行う。

1	学習指導要領「総則」の明示された事項と学校教育の実情(学習指導補助等の経験を活かして)
2	学級経営の実際(学級集団の形成、規範意識の醸成、学級の組織と役割意識の向上)
3	学校ボランティア・インターンシップ等の立案と学校との調整に関する協議
4	学級経営上の課題とその解決(日常生活や学習への適応、健康・安全意識の向上)
5	特別な支援を必要とする幼児・児童の理解と配慮の実際(個別の教育支療計画)
6	学校問題の事例とその解決方策(学校・教員への信頼と教育効果を高める方策)
7	豊かな人間関係の育成と個性や社会的資質を高める教育活動例(生活習慣の確立)
8	災害安全・生活安全・交通安全に係る教育活動とその実際(防災教育や犯罪被害防止等の対策)
9	非社会的な問題行動の未然防止と課題解決の実際(不登校、引きこもり等の予防と対応)
10	反社会的な問題行動の未然防止と課題解決への取組み例(いじめ、暴力等の予防と対処)
11	最新の教育事情と学校の実情1(学力調査等の結果を活かす取り組みの創造)
12	最新の教育事情と学校の実情2(「21世紀型学力」と教育活動の工夫)
13	学校ボランティア・インターンシップ等の取組みと省察(次年度に繋げるための方策の検討)

14	最新の教育事情と学校の実情3（「ESD（持続発展教育）」と教育活動の工夫）
15	実践的指導力を高める上での自己課題と今後の取組みについて(小論文作成)

評価

事前課題及び事後課題<小レポート>（60点）。最終試験(40点)を総合し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】回ごとに事前課題を提示するので、情報を収集したり、学校ボランティア等で得た知見を取り纏め、小レポートを作成し提出する。この小レポートを元に、授業で集団討議法等を行う。

【事後学修】授業での学習内容や集団討議法によって得た知見を小レポートに纏める。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 『小学校学習指導要領』（平成20年3月文部科学省告示）、 『生徒指導提要』（平成22年3月文部科学省刊）

【推薦書】 栗山和弘『授業の心理学』（福村出版）

【参考図書】 各回で取上げる課題に即した資料・図書等を提示する。

科目名	介護等体験事前事後指導		
担当教員名	狩野 浩二、津吹 卓、佐藤 陽、岩井 雄一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

義務教育学校（小学校・中学校）の教員になるために必要となる「介護等体験」について、事前指導と事後指導を行う科目です。集中欄で登録し、4月～5月にかけての時期に昼休みや5時限目などを活用して指導します。

介護等体験で体験する「福祉施設体験5日間」と、「特別支援学校体験2日間」について、先輩たちが経験した話を聞いたり、福祉の専門性、障害児教育の専門性について、各専門の先生方から話を聞いたりし、介護等体験が実り多いものになるよう勉強します。

高齢者福祉や児童福祉、障害者福祉など、さまざまな福祉施設での体験を通して、福祉の心を養います。また、特別支援学校での体験を通して、肢体不自由児、知的障害児、視覚障害児の他、重複障害児など、心身に障害のある子どもたちについての理解を深めます。

内容

以下の内容を学習します。

- 事前指導、社会福祉施設及び、特別支援学校についての学修
- 介護等体験（福祉施設5日間、特別支援学校2日間）7日間
- 事後指導、体験ノートの執筆と提出

それぞれ、4月のガイダンスにおいて講義日程、体験機関、体験場所等について説明します。

教職支援課（教職課程センター）の掲示等をよくみておいてください。

評価

事前事後指導における受講態度（2割）、体験への参加（3割）、事後報告書の内容（5割）を総合して、60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前予習】テキストを読み、概要を理解するとともに、疑問点を事前指導中に解決します。

【事後学修】体験終了後に、振り返りのレポートを作成し、教職支援課に提出します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

次のテキストを使用します。各自購入し、事前指導に参加してください。

増田雅暢 執筆代表 浦野正男・櫛田匠・磯彰格・森好明 著『第2版よくわかる社会福祉施設』全国社会福祉協議会 出版部

全国特別支援学校長会編著『介護等体験ガイドブック フィリア [新学習指導要領版]』ジアース教育新社

科目名	外国語活動		
担当教員名	島田 美織		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

The aim of this course is to give students a general introduction to teaching English to young children in Japan. Students will acquire basic vocabulary, skills to create materials and design lessons, and the way to introduce English words/phrases to young learners of English.

内容

The students will work with textbooks and other materials which have been used successfully in Japan to develop the speaking, listening, and pre-writing skills in English. Fun and easy-to-use activities, such as games and songs to teach the skills will be introduced and practiced, as well as basic classroom English to develop teacher confidence. The course will be taught in English and limited to "20 students" at the most. (最大定員 20名)

Week 1	Greeting the classroom ready (Lesson 1)
Week 2	Greeting learners (Lesson 2)
Week 3	Planning lessons (Lesson 3)
Week 4	Using teaching aids (Lesson 4)
Week 5	Teaching listening (Lesson 5)
Week 6	Leading pronunciation practice (Lesson 7)
Week 7	Facilitating speaking (Lesson 8)
Week 8	Introducing vocabulary (Lesson 9)
Week 9	Beginning reading (Lesson 10)
Week 10	Presenting a story-reading lesson (Lesson 11)
Week 11	Review
Week 12	Preparation for group presentations
Week 13	Rehearsal
Week 14 & 15	Group presentations

評価

Evaluation will be based on participation & motivation (30%), homework assignments (20%) and final presentation (50%). Passing grade is 60 %.
Excellent attendance is required. Tardiness three times will equal an absence.

授業外学習

【事前予習】 Reading the next unit, doing exercises or handout

【事後学修】Vocabulary review or doing an assignment

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

Teaching English to Young Learners (Compass publishing)

科目名	外国語活動		
担当教員名	島田 美織		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

The aim of this course is to give students a general introduction to teaching English to young children in Japan. Students will acquire basic vocabulary, skills to create materials and design lessons, and the way to introduce English words/phrases to young learners of English.

内容

The students will work with textbooks and other materials which have been used successfully in Japan to develop the speaking, listening, and pre-writing skills in English. Fun and easy-to-use activities, such as games and songs to teach the skills will be introduced and practiced, as well as basic classroom English to develop teacher confidence. The course will be taught in English and limited to "20 students" at the most. (最大定員 20名)

Week 1	Greeting the classroom ready (Lesson 1)
Week 2	Greeting learners (Lesson 2)
Week 3	Planning lessons (Lesson 3)
Week 4	Using teaching aids (Lesson 4)
Week 5	Teaching listening (Lesson 5)
Week 6	Leading pronunciation practice (Lesson 7)
Week 7	Facilitating speaking (Lesson 8)
Week 8	Introducing vocabulary (Lesson 9)
Week 9	Beginning reading (Lesson 10)
Week 10	Presenting a story-reading lesson (Lesson 11)
Week 11	Review
Week 12	Preparation for group presentations
Week 13	Rehearsal
Week 14 & 15	Group presentations

評価

Evaluation will be based on participation & motivation (30%), homework assignments (20%) and final presentation (50%). Passing grade is 60 %.
Excellent attendance is required. Tardiness three times will equal an absence.

授業外学習

【事前予習】 Reading the next unit, doing exercises or handout

【事後学修】Vocabulary review or doing an assignment

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

Teaching English to Young Learners (Compass publishing)

科目名	外国語活動		
担当教員名	松岡 敬明		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

児童にとっての外国語活動とは何かを考察し、児童が学ぶ実践的な場面を考え中高の外国語学習とは異なることを学びます。

科目の概要

外国語活動全般に関する知識を身に付け、コミュニケーション能力の素地を育てる指導技術を学びます。

学修目標（＝到達目標）

小学校学習指導要領における外国語活動の趣旨を理解し、指導計画の作成はじめ、実践的指導力を養います。

内容

小学校外国語活動の目標及び内容等を理解し、"Hi, friends!"（文部科学省）の活用の仕方を学びながら実践的指導力を身に付けることを目指します。授業は、講義と演習を交えて進めていきますが、学習者自らが主体的に学ぶことが必要です。授業全般を通じて、様々な指導場面で活用できる Classroom English も学んでいただきます。定員は20名とします。

1	第1週 オリエンテーション
2	第2週 外国語活動導入の経緯
3	第3週 小学校外国語活動の役割
4	第4週 基本的な外国語指導法
5	第5週 "Hi, friends! 1" の内容と年間指導計画
6	第6週 "Hi, friends! 2" の内容と年間指導計画
7	第7週 "Hi, friends!"を活用した指導の在り方（1）
8	第8週 "Hi, friends!"を活用した指導の在り方（2）
9	第9週 言語活動（1）（歌、チャンツ）
10	第10週 言語活動（2）（ゲーム）
11	第11週 言語活動（3）（ゲーム）
12	第12週 指導案の作成
13	第13週 模擬授業（1）
14	第14週 模擬授業（2）
15	第15週 まとめ

評価

授業への参加度30%、レポート20%、模擬授業50%とし、総合評価60点以上を合格とする。遅刻3回で欠席1とする。

授業外学習

【事前予習】前時に示されたワークシート等

【事後学修】Classroom English の反復練習

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】Hi, friends! 1 & 2 ・文部科学省

直山木綿子・小学校外国活動のあり方と”Hi, friends!”の活用・東京書籍

小学校学習指導要領解説外国語活動・文部科学省（WebからDLも可）

【推薦書】

【参考図書】

科目名	外国語活動		
担当教員名	松岡 敬明		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

児童にとっての外国語活動とは何かを考察し、児童が学ぶ実践的な場面を考え中高の外国語学習とは異なることを学びます。

科目の概要

外国語活動全般に関する知識を身に付け、コミュニケーション能力の素地を育てる指導技術を学びます。

学修目標（＝到達目標）

小学校学習指導要領における外国語活動の趣旨を理解し、指導計画の作成はじめ、実践的指導力を養います。

内容

小学校外国語活動の目標及び内容等を理解し、"Hi, friends!"（文部科学省）の活用の仕方を学びながら実践的指導力を身に付けることを目指します。授業は、講義と演習を交えて進めていきますが、学習者自らが主体的に学ぶことが必要です。授業全般を通じて、様々な指導場面で活用できる Classroom English も学んでいただきます。定員は20名とします。

1	第1週 オリエンテーション
2	第2週 外国語活動導入の経緯
3	第3週 小学校外国語活動の役割
4	第4週 基本的な外国語指導法
5	第5週 "Hi, friends! 1" の内容と年間指導計画
6	第6週 "Hi, friends! 2" の内容と年間指導計画
7	第7週 "Hi, friends!"を活用した指導の在り方（1）
8	第8週 "Hi, friends!"を活用した指導の在り方（2）
9	第9週 言語活動（1）（歌、チャンツ）
10	第10週 言語活動（2）（ゲーム）
11	第11週 言語活動（3）（ゲーム）
12	第12週 指導案の作成
13	第13週 模擬授業（1）
14	第14週 模擬授業（2）
15	第15週 まとめ

評価

授業への参加度30%、レポート20%、模擬授業50%とし、総合評価60点以上を合格とする。遅刻3回で欠席1とする。

授業外学習

【事前予習】前時に示されたワークシート等

【事後学修】Classroom English の反復練習

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】Hi, friends! 1 & 2 ・文部科学省

直山木綿子・小学校外国活動のあり方と”Hi, friends!”の活用・東京書籍

小学校学習指導要領解説外国語活動・文部科学省（WebからDLも可）

【推薦書】

【参考図書】

科目名	学芸総合演習		
担当教員名	井口 磯夫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は、教育職員免許法施行規則に定める科目区分の「教科又は教職に関する科目」の中の選択科目である。

21世紀を迎えて、教育環境の変化、特に情報通信ネットワーク、デジタル機器などマルチメディアの発達と普及は目覚ましく、教育現場におけるメディア環境を一変させようとしている。この変化は、単に新しいメディアが視聴覚教育に加わるというものではなく、メディアの役割のみならず、教育そのものの変革を迫っている。メディアの発達は、教育に強い影響を及ぼすのみならず、新たな教育課題を発生させる。その最大の課題は、これまで学校、家庭、社会といった子どもの実体験的空間の中で考えられてきた教育についての考え方の修正である。教師として、メディアそのものの理解を求めるメディア・リテラシーの習得が必要不可欠である。

ICTを利用して問題解決できるようになること。メディア・リテラシーを身につけること。

内容

1	情報とは何か (情報研究の歴史)
2	情報概念 (情報の5つの特性)
3	コミュニケーションと教育メディア (文字・ことば・文章、情報のデジタル化)
4	情報化の進展と情報教育
5	情報教育の考え方 (学校教育における位置づけ)
6	情報教育の目標 (3本柱)
7	小学校の各教科における情報教育
8	学校教育における視聴覚メディアの活用
9	インターネットとマルチメディアの教育利用
10	メディア・リテラシーとは
11	子どもの学習活動と情報教育の実践 (ICT活用能力)
12	情報モラルと情報セキュリティ
13	課題作成 (プレゼンテーション教材)
14	課題作成 (プレゼンテーション教材)
15	まとめ

評価

授業中に行う課題に対する評価 (30%)、課題レポートに対する評価 (30%)、テスト (30%)、授業への参加度 (10%) を総合して評価し、60%以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】文部科学省「教育の情報化に関する手引き」をダウンロードして読んでおくこと

【事後学修】教員のICT活用指導力のチェックリスト (小学校版) をチェックすること

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は使用せず。毎回の授業において、印刷資料を配布する。

科目名	学芸総合演習		
担当教員名	綾井 桜子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は児童教育学科専門科目における、教育の理論および実践の応用に関する科目の一つです。1年次必修の教育学概論の履修後、教育の理論について理解を深めるための科目です。

欧米を中心とした教育の歴史 (近代以降) について、教育の基礎理論とこれをうみだした教育家を対応させながら扱います。本科目で扱う内容は、いずれも教職教養のなかで重要な位置づけを与えられてきたものです。

近代から現代に至るまで、教育の前提となってきた基本的な考え方について知り、理解することを目標とします。

内容	
1	近代教育を歴史的にみる
2	印刷術の発明と教科書の誕生 コメニウス『世界図絵』
3	あらゆる人にあらゆることを教える コメニウス『大教授学』
4	習慣形成と教育 ロック『教育論』
5	近代的子ども観の誕生と教育 ルソー『エミール』
6	人間の教育 ルソー『エミール』
7	ペスタロッチと「メトード」
8	学校教育と教授 ヘルバルト
9	新教育の実践と「児童中心主義」
10	デューイ・スクールの実践 『学校と社会』
11	経験としての教育
12	「方法的社会化」としての教育
13	教育と学習
14	課題発表
15	課題発表

評価

レポート60点、授業への取り組み20点、課題発表20点の合計100点とし、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】次週に扱う箇所の基本的な用語、概念 (授業時に指示) について、教育学関連の事典等で調べておく。

【事後学修】教職教養の基本用語について復習を行い、教育学上、著名な人物や考え方などを関連づけ、説明できるようにする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【テキスト】授業時に指示します。

【推薦書】関川悦雄・北野秋男『教育思想のルーツを求めて』啓明出版、2003年

今井康雄編『教育思想史』有斐閣、2009年

【参考図書】『教育思想事典』勁草書房、2000年 ほか授業時に紹介します。

科目名	学芸総合演習		
担当教員名	井口 磯夫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は教育職員免許法施行規則に定める科目区分の「教科又は教職に関する科目」の中の選択科目である。

児童は理科が大好きである。しかし現場の教師に理科実験を敬遠する傾向が見られる。そこで、身近な道具を使って子どもたちでもできる実験を工夫・開発し、実際に体験することを通して、理科の楽しさを実感することをねらいとする。

理科の4分野（物理，化学，生物学，地学）に関して，小学校理科で扱う内容に限定せず，理論的な裏づけや根拠を理解するということより，楽しいと思われるテーマに取り組んでみる。

内容

1	リニアモーターカーを教室に走らせよう（電流の働きを調べる）
2	動くおもちゃを工夫しよう。（おもりの働き）
3	ペットボトルで水ロケットを作ろう
4	音や光の実験箱（物に光を当てたり，物で音を出したりしてみよう）
5	焚き火の名人（原始人の火おこし術から，木がよく燃える仕組みを考えよう）
6	物の溶け方（きれいな結晶を作ろう）
7	空気鉄砲や水鉄砲を作ってみよう
8	ガラスビーズで顕微鏡を作ろう（身近な微生物）
9	魚の食べ物の通り道を調べよう
10	植物や動物の育ち方（継続観察）
11	波の伝わり方（縦波、横波）
12	高いビルほど激しく揺れて危険だ
13	川はどうして蛇行するのか（大地のつくりとでき方）
14	星の動きを確かめよう（手作りプラネタリウム）
15	まとめ

評価

授業中に行う課題に対する評価（30%）、課題レポートに対する評価（30%）、テスト（30%）、授業への参加度（10%）を総合して評価し、60%以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】演習科目なので特に予習を必要としない

【事後学修】演習したことから、身の回りの事象に注意を向けて観察すること

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】資料を適宜配布する

科目名	学芸総合演習		
担当教員名	小城 正重		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

教師としての指導力を身につけ、自信をもって児童の前に立つことができるようにするために、多様な指導方法を学ぶ。

科目の概要

- ・教育実習や学校現場で、学生たちが戸惑っている「子どもを引き付ける方法」について、歌唱教材や音読教材、手遊び歌やゲーム、生活科や図画工作科で使える玩具づくりを通して自信と指導力をつけていく。
- ・ルーシーモンゴメリ著「赤毛のアン」に書かれているアンの言葉から、豊かな感性や想像力、生き抜く力や人を引き付ける言葉について学ぶ。

学修目標（＝到達目標）

反演習を通して、学生は自信をもって児童と向き合い、子どもたちを引き付ける力を確実に習得する。

内容

1	子どもを引き付ける話術、話の聴き方、学級づくりで大事なこと
2	小学1年生のための音読指導、楽しいゲーム指導、アンから学ぶ言葉（夢）
3	小学1年生のための歌唱指導、楽しいゲーム指導、アンから学ぶ言葉（想像）
4	小学1年生の生活科玩具教材つくりと遊び方の工夫、ことば遊び
5	小学1年生の図画工作科教材づくり、発表と鑑賞、ことば遊び
6	小学2年生のための音読指導、楽しいゲーム指導、アンから学ぶ言葉（友情）
7	小学2年生のための歌唱指導、楽しいゲーム指導、アンから学ぶ言葉（愛情）
8	小学2年生の生活科の玩具教材づくりと遊び方の工夫、ことば遊び
9	小学2年生の図画工作科教材づくり、発表と鑑賞、ことば遊び
10	集団遊びで気を付けること、楽しさの陰にある危機、すぐ踊れるフォークダンスの指導
11	小学3年生のための音読指導、楽しいゲーム指導、アンから学ぶ言葉（人生）
12	小学3年生のための歌唱指導、楽しいゲーム指導、アンから学ぶ言葉（希望）
13	小学3年生の図画工作科教材づくり、発表と鑑賞、ことば遊び
14	グループごとの模擬授業、成果と課題を見つけ、今後につなげる
15	まとめ

評価

授業への取り組み30%、学習態度・積極性・発言30%、提出物10%、試験30%によって総合的に評価し、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】次週に扱う箇所の基本的な用語を調べておく。また音読教材は読む練習をしておく。

【事後学修】授業で学んだことを整理し、理解を深めておく

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

なし 必要に応じて、プリント配布

科目名	教育学特別講義		
担当教員名	井口 磯夫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は、教育職員免許法施行規則に定める科目区分の「教科又は教職に関する科目」の中の選択科目である。

これからの小学校普通教室には、構内ネットワーク (LAN) が敷設され2台のPCと1台のプロジェクタが配備されるだろう。さらに黒板の横に電子情報ボードが置かれるかもしれない。これらのITを活用して子どもたちに「分かる授業」をやり、学力を伸ばすことが求められている。そこで、本演習ではITをどの教科でもどの授業でも活用して「分かる授業」ができるIT活用授業マイスターを養成することをねらいとする。

ICTを活用できるようになること、ICTを活用して「分かる授業」を実施できる能力を身につける。ICTを活用した教材を作成できるようになること。

内容

1	これからの教員、これからのIT活用授業
2	IT活用授業の特徴、IT活用と学力
3	普通教室でのIT活用のための準備
4	実践しやすさから見たIT活用授業
5	ものを写して動きや操作を教える授業の設計
6	教科書の写真を大写して吟味する授業の設計
7	デジタルカメラを教材提示装置に利用した授業
8	パワーポイントで教材作成
9	理科実験室で効果的なIT活用をした授業の設計
10	電子情報ボードでデジタルコンテンツを活用した授業
11	創造的な図工授業を実現するIT活用授業の設計
12	低学年でもできるデジタルカメラとテレビを用いたプレゼンテーション学習
13	校内学習センターや公立教育センターによるコンテンツ利用の授業設計
14	IT活用スキルのチェックリスト
15	まとめ

評価

授業中に行う課題に対する評価 (30%)、継続観察レポートに対する評価 (30%)、テスト (30%)、授業への参加度 (10%) を総合して評価し、60%以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】文部科学省ホームページから「教育情報化に関する手引き」の最新版をダウンロードしてよむこと

【事後学修】毎時間の課題に挑戦すること

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】教科書は使用せず。毎回の授業において、印刷資料を配布する。

科目名	卒業研究演習		
担当教員名	綾井 桜子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、児童教育学科の大学における学びの総まとめである卒業研究 (4年次) の準備段階として、自らの興味関心をもつ研究分野について探求するプロセスを身につけることをねらいとしている。3年の演習 (ゼミ) は4年次の卒業研究に連動するので、各指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方など学び理解する。

学修目標 (= 到達目標)

卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法論を理解し、4年次の卒業研究のテーマを具現化することができる。

内容

演習 (ゼミ) では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に模索するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は少人数の討論形式を進めることを基本とする。担当教員の専門分野をもとに、学生が自由にゼミを選択する形式にしている。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みにむけて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

各自が興味・関心のあるテーマを決めて、発表、質疑応答、討論を行い、お互いのテーマを深めあうようにする。

担当教員からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

後期には、小学校の授業参観など学外授業の機会も設けることがある。卒業研究のテーマ選択及び決定に向けて以下のような活動を展開する。

各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

調査用紙の作成など研究を進める準備に取りかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・創作・考察に関する手法などを共有する。

評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容及び提出物の評価（60点）、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢（40点）という配点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】前期には、文献検索、手法の検討、報告の準備等、毎週、1時間程度の準備が必要である。後期には、各自のテーマに合わせた研究、調査を進め、報告準備を行うために、毎週、2時間程度の準備が必要である。

【事後学修】質疑応答の内容、各教員からの指摘をふまえ、各自の研究を発展させる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】【推薦書】【参考図書】その都度、推薦して提示する。

科目名	卒業研究演習		
担当教員名	清水 玲子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、児童教育学科の大学における学びの総まとめである卒業研究 (4年次) の準備段階として、自らの興味関心をもつ研究分野について探求するプロセスを身につけることをねらいとしている。3年の演習 (ゼミ) は4年次の卒業研究に連動するので、各指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方など学び理解する。

学修目標 (= 到達目標)

卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法論を理解し、4年次の卒業研究のテーマを具現化することができる。

内容

演習 (ゼミ) では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に模索するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は少人数の討論形式を進めることを基本とする。担当教員の専門分野をもとに、学生が自由にゼミを選択する形式にしている。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みにむけて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

各自が興味・関心のあるテーマを決めて、発表、質疑応答、討論を行い、お互いのテーマを深めあうようにする。

担当教員からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

後期には、小学校の授業参観など学外授業の機会も設けることがある。卒業研究のテーマ選択及び決定に向けて以下のような活動を展開する。

各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

調査用紙の作成など研究を進める準備に取りかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・創作・考察に関する手法などを共有する。

評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容及び提出物の評価（60点）、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢（40点）という配点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】前期には、文献検索、手法の検討、報告の準備等、毎週、1時間程度の準備が必要である。後期には、各自のテーマに合わせた研究、調査を進め、報告準備を行うために、毎週、2時間程度の準備が必要である。

【事後学修】質疑応答の内容、各教員からの指摘をふまえ、各自の研究を発展させる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】【推薦書】【参考図書】その都度、推薦して提示する。

科目名	卒業研究演習		
担当教員名	岡上 直子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	00クラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、児童教育学科の大学における学びの総まとめである卒業研究（4年次）の準備段階として、自らの興味関心をもつ研究分野について探求するプロセスを身につけることをねらいとしている。3年の演習（ゼミ）は4年次の卒業研究に連動するので、各指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方など学び理解する。

学修目標 (= 到達目標)

卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法論を理解し、4年次の卒業研究のテーマを具現化することができる。

内容

演習（ゼミ）では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に模索するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は少人数の討論形式を進めることを基本とする。担当教員の専門分野をもとに、学生が自由にゼミを選択する形式にしている。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みにむけて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

各自が興味・関心のあるテーマを決めて、発表、質疑応答、討論を行い、お互いのテーマを深めあうようにする。

担当教員からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

後期には、小学校の授業参観など学外授業の機会も設けることがある。卒業研究のテーマ選択及び決定に向けて以下のような活動を展開する。

各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

調査用紙の作成など研究を進める準備に取りかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・創作・考察に関する手法などを共有する。

評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容及び提出物の評価（60点）、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢（40点）という配点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】前期には、文献検索、手法の検討、報告の準備等、毎週、1時間程度の準備が必要である。後期には、各自のテーマに合わせた研究、調査を進め、報告準備を行うために、毎週、2時間程度の準備が必要である。

【事後学修】質疑応答の内容、各教員からの指摘をふまえ、各自の研究を発展させる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】【推薦書】【参考図書】その都度、推薦して提示する。

科目名	卒業研究演習		
担当教員名	山本 悟		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Dクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、児童教育学科の大学における学びの総まとめである卒業研究 (4年次) の準備段階として、自らの興味関心をもつ研究分野について探求するプロセスを身につけることをねらいとしている。3年の演習 (ゼミ) は4年次の卒業研究に連動するので、各指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方など学び理解する。

学修目標 (= 到達目標)

卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法論を理解し、4年次の卒業研究のテーマを具現化することができる。

内容

演習 (ゼミ) では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に模索するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は少人数の討論形式で進めることを基本とする。担当教員の専門分野をもとに、学生が自由にゼミを選択する形式にしている。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みにむけて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

各自が興味・関心のあるテーマを決めて、発表、質疑応答、討論を行い、お互いのテーマを深めあうようにする。

担当教員からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

後期には、小学校の授業参観など学外授業の機会も設けることがある。卒業研究のテーマ選択及び決定に向けて以下のような活動を展開する。

各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

調査用紙の作成など研究を進める準備に取りかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・創作・考察に関する手法などを共有する。

評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容及び提出物の評価（60点）、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢（40点）という配点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】前期には、文献検索、手法の検討、報告の準備等、毎週、1時間程度の準備が必要である。後期には、各自のテーマに合わせた研究、調査を進め、報告準備を行うために、毎週、2時間程度の準備が必要である。

【事後学修】質疑応答の内容、各教員からの指摘をふまえ、各自の研究を発展させる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】【推薦書】【参考図書】その都度、推薦して提示する。

科目名	卒業研究演習		
担当教員名	増田 吉史		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Fクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、児童教育学科の大学における学びの総まとめである卒業研究 (4年次) の準備段階として、自らの興味関心をもつ研究分野について探求するプロセスを身につけることをねらいとしている。3年の演習 (ゼミ) は4年次の卒業研究に連動するので、各指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方など学び理解する。

学修目標 (= 到達目標)

卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法論を理解し、4年次の卒業研究のテーマを具現化することができる。

内容

演習 (ゼミ) では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に模索するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は少人数の討論形式を進めることを基本とする。担当教員の専門分野をもとに、学生が自由にゼミを選択する形式にしている。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みにむけて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

各自が興味・関心のあるテーマを決めて、発表、質疑応答、討論を行い、お互いのテーマを深めあうようにする。

担当教員からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

後期には、小学校の授業参観など学外授業の機会も設けることがある。卒業研究のテーマ選択及び決定に向けて以下のような活動を展開する。

各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

調査用紙の作成など研究を進める準備に取りかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・創作・考察に関する手法などを共有する。

評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容及び提出物の評価（60点）、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢（40点）という配点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】前期には、文献検索、手法の検討、報告の準備等、毎週、1時間程度の準備が必要である。後期には、各自のテーマに合わせた研究、調査を進め、報告準備を行うために、毎週、2時間程度の準備が必要である。

【事後学修】質疑応答の内容、各教員からの指摘をふまえ、各自の研究を発展させる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】【推薦書】【参考図書】その都度、推薦して提示する。

科目名	卒業研究演習		
担当教員名	狩野 浩二		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Gクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、児童教育学科の大学における学びの総まとめである卒業研究 (4年次) の準備段階として、自らの興味関心をもつ研究分野について探求するプロセスを身につけることをねらいとしている。3年の演習 (ゼミ) は4年次の卒業研究に連動するので、各指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方など学び理解する。

学修目標 (= 到達目標)

卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法論を理解し、4年次の卒業研究のテーマを具現化することができる。

内容

演習 (ゼミ) では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に模索するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は少人数の討論形式を進めることを基本とする。担当教員の専門分野をもとに、学生が自由にゼミを選択する形式にしている。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みにむけて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

各自が興味・関心のあるテーマを決めて、発表、質疑応答、討論を行い、お互いのテーマを深めあうようにする。

担当教員からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

後期には、小学校の授業参観など学外授業の機会も設けることがある。卒業研究のテーマ選択及び決定に向けて以下のような活動を展開する。

各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

調査用紙の作成など研究を進める準備に取りかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・創作・考察に関する手法などを共有する。

評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容及び提出物の評価（60点）、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢（40点）という配点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】前期には、文献検索、手法の検討、報告の準備等、毎週、1時間程度の準備が必要である。後期には、各自のテーマに合わせた研究、調査を進め、報告準備を行うために、毎週、2時間程度の準備が必要である。

【事後学修】質疑応答の内容、各教員からの指摘をふまえ、各自の研究を発展させる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】【推薦書】【参考図書】その都度、推薦して提示する。

科目名	卒業研究演習		
担当教員名	日出間 均		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Hクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、児童教育学科の大学における学びの総まとめである卒業研究（4年次）の準備段階として、自らの興味関心をもつ研究分野について探求するプロセスを身につけることをねらいとしている。3年の演習（ゼミ）は4年次の卒業研究に連動するので、各指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方など学び理解する。

学修目標（＝到達目標）

卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法論を理解し、4年次の卒業研究のテーマを具現化することができる。

内容

演習（ゼミ）では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に模索するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は少人数の討論形式を進めることを基本とする。担当教員の専門分野をもとに、学生が自由にゼミを選択する形式にしている。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みにむけて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

各自が興味・関心のあるテーマを決めて、発表、質疑応答、討論を行い、お互いのテーマを深めあうようにする。

担当教員からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

後期には、小学校の授業参観など学外授業の機会も設けることがある。卒業研究のテーマ選択及び決定に向けて以下のような活動を展開する。

各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

調査用紙の作成など研究を進める準備に取りかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・創作・考察に関する手法などを共有する。

評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容及び提出物の評価（60点）、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢（40点）という配点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】前期には、文献検索、手法の検討、報告の準備等、毎週、1時間程度の準備が必要である。後期には、各自のテーマに合わせた研究、調査を進め、報告準備を行うために、毎週、2時間程度の準備が必要である。

【事後学修】質疑応答の内容、各教員からの指摘をふまえ、各自の研究を発展させる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】【推薦書】【参考図書】その都度、推薦して提示する。

科目名	卒業研究演習		
担当教員名	富山 哲也		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Jクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、児童教育学科の大学における学びの総まとめである卒業研究 (4年次) の準備段階として、自らの興味関心をもつ研究分野について探求するプロセスを身につけることをねらいとしている。3年の演習 (ゼミ) は4年次の卒業研究に連動するので、各指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方など学び理解する。

学修目標 (= 到達目標)

卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法論を理解し、4年次の卒業研究のテーマを具現化することができる。

内容

演習 (ゼミ) では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に模索するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は少人数の討論形式で進めることを基本とする。担当教員の専門分野をもとに、学生が自由にゼミを選択する形式にしている。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みにむけて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

各自が興味・関心のあるテーマを決めて、発表、質疑応答、討論を行い、お互いのテーマを深めあうようにする。

担当教員からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

後期には、小学校の授業参観など学外授業の機会も設けることがある。卒業研究のテーマ選択及び決定に向けて以下のような活動を展開する。

各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

調査用紙の作成など研究を進める準備に取りかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・創作・考察に関する手法などを共有する。

評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容及び提出物の評価（60点）、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢（40点）という配点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】前期には、文献検索、手法の検討、報告の準備等、毎週、1時間程度の準備が必要である。後期には、各自のテーマに合わせた研究、調査を進め、報告準備を行うために、毎週、2時間程度の準備が必要である。

【事後学修】質疑応答の内容、各教員からの指摘をふまえ、各自の研究を発展させる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】【推薦書】【参考図書】その都度、推薦して提示する。

科目名	卒業研究演習		
担当教員名	星野 敦子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Kクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、児童教育学科の大学における学びの総まとめである卒業研究（4年次）の準備段階として、自らの興味関心をもつ研究分野について探求するプロセスを身につけることをねらいとしている。3年の演習（ゼミ）は4年次の卒業研究に連動するので、各指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方など学び理解する。

学修目標（＝到達目標）

卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法論を理解し、4年次の卒業研究のテーマを具現化することができる。

内容

演習（ゼミ）では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に模索するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は少人数の討論形式で進めることを基本とする。担当教員の専門分野をもとに、学生が自由にゼミを選択する形式にしている。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みにむけて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

各自が興味・関心のあるテーマを決めて、発表、質疑応答、討論を行い、お互いのテーマを深めあうようにする。

担当教員からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

後期には、小学校の授業参観など学外授業の機会も設けることがある。卒業研究のテーマ選択及び決定に向けて以下のような活動を展開する。

各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

調査用紙の作成など研究を進める準備に取りかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・創作・考察に関する手法などを共有する。

評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容及び提出物の評価（60点）、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢（40点）という配点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】前期には、文献検索、手法の検討、報告の準備等、毎週、1時間程度の準備が必要である。後期には、各自のテーマに合わせた研究、調査を進め、報告準備を行うために、毎週、2時間程度の準備が必要である。

【事後学修】質疑応答の内容、各教員からの指摘をふまえ、各自の研究を発展させる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】【推薦書】【参考図書】その都度、推薦して提示する。

科目名	卒業研究演習		
担当教員名	津吹 卓		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Eクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、児童教育学科の大学における学びの総まとめである卒業研究 (4年次) の準備段階として、自らの興味関心をもつ研究分野について探求するプロセスを身につけることをねらいとしている。3年の演習 (ゼミ) は4年次の卒業研究に連動するので、各指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方など学び理解する。

学修目標 (= 到達目標)

卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法論を理解し、これに基づき4年次の卒業研究のテーマを具現化することができる。

内容

演習 (ゼミ) では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に模索するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は少人数の討論形式で進めることを基本とする。担当教員の専門分野をもとに、学生が自由にゼミを選択する形式にしている。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みにむけて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

各自が興味・関心のあるテーマを決めて、発表、質疑応答、討論を行い、お互いのテーマを深めあうようにする。

担当教員からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

後期には、小学校の授業参観など学外授業の機会も設けることがある。卒業研究のテーマ選択及び決定に向けて以下のような活動を展開する。

各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

調査用紙の作成など研究を進める準備に取りかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・創作・考察に関する手法などを共有する。

評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容及び提出物の評価（60点）、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢（40点）という配点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】前期には、文献検索、手法の検討、報告の準備等、毎週、1時間程度の準備が必要である。後期には、各自のテーマに合わせた研究、調査を進め、報告準備を行うために、毎週、2時間程度の準備が必要である。

【事後学修】質疑応答の内容、各教員からの指摘をふまえ、各自の研究を発展させる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】【推薦書】【参考図書】その都度、推薦して提示する。

科目名	卒業研究演習		
担当教員名	宮川 保之		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Lクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、児童教育学科の大学における学びの総まとめである卒業研究 (4年次) の準備段階として、自らの興味関心をもつ研究分野について探求するプロセスを身につけることをねらいとしている。3年の演習 (ゼミ) は4年次の卒業研究に連動するので、各指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方など学び理解する。

学修目標 (= 到達目標)

卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法論を理解し、これに基づき4年次の卒業研究のテーマを具現化することができる。

内容

演習 (ゼミ) では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に模索するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は少人数の討論形式で進めることを基本とする。担当教員の専門分野をもとに、学生が自由にゼミを選択する形式にしている。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みにむけて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

各自が興味・関心のあるテーマを決めて、発表、質疑応答、討論を行い、お互いのテーマを深めあうようにする。

担当教員からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

後期には、小学校の授業参観など学外授業の機会も設けることがある。卒業研究のテーマ選択及び決定に向けて以下のような活動を展開する。

各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

調査用紙の作成など研究を進める準備に取りかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・創作・考察に関する手法などを共有する。

評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容及び提出物の評価（60点）、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢（40点）という配点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】前期には、文献検索、手法の検討、報告の準備等、毎週、1時間程度の準備が必要である。後期には、各自のテーマに合わせた研究、調査を進め、報告準備を行うために、毎週、2時間程度の準備が必要である。

【事後学修】質疑応答の内容、各教員からの指摘をふまえ、各自の研究を発展させる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】【推薦書】【参考図書】その都度、推薦して提示する。

科目名	卒業研究演習		
担当教員名	吉川 知夫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Mクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、児童教育学科の大学における学びの総まとめである卒業研究 (4年次) の準備段階として、自らの興味関心をもつ研究分野について探求するプロセスを身につけることをねらいとしている。3年の演習 (ゼミ) は4年次の卒業研究に連動するので、各指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方など学び理解する。

学修目標 (= 到達目標)

卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法論を理解し、これに基づき4年次の卒業研究のテーマを具現化することができる。

内容

演習 (ゼミ) では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に模索するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は少人数の討論形式で進めることを基本とする。担当教員の専門分野をもとに、学生が自由にゼミを選択する形式にしている。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みにむけて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

各自が興味・関心のあるテーマを決めて、発表、質疑応答、討論を行い、お互いのテーマを深めあうようにする。

担当教員からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

後期には、小学校の授業参観など学外授業の機会も設けることがある。卒業研究のテーマ選択及び決定に向けて以下のような活動を展開する。

各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

調査用紙の作成など研究を進める準備に取りかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・創作・考察に関する手法などを共有する。

評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容及び提出物の評価（60点）、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢（40点）という配点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】前期には、文献検索、手法の検討、報告の準備等、毎週、1時間程度の準備が必要である。後期には、各自のテーマに合わせた研究、調査を進め、報告準備を行うために、毎週、2時間程度の準備が必要である。

【事後学修】質疑応答の内容、各教員からの指摘をふまえ、各自の研究を発展させる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】【推薦書】【参考図書】その都度、推薦して提示する。

科目名	卒業研究演習		
担当教員名	岩井 雄一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Nクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、児童教育学科の大学における学びの総まとめである卒業研究（4年次）の準備段階として、自らの興味関心をもつ研究分野について探求するプロセスを身につけることをねらいとしている。3年の演習（ゼミ）は4年次の卒業研究に連動するので、各指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方など学び理解する。

学修目標（＝到達目標）

卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法論を理解し、これに基づき4年次の卒業研究のテーマを具現化することができる。

内容

演習（ゼミ）では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に模索するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は少人数の討論形式で進めることを基本とする。担当教員の専門分野をもとに、学生が自由にゼミを選択する形式にしている。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みにむけて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

各自が興味・関心のあるテーマを決めて、発表、質疑応答、討論を行い、お互いのテーマを深めあうようにする。

担当教員からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

後期には、小学校の授業参観など学外授業の機会も設けることがある。卒業研究のテーマ選択及び決定に向けて以下のような活動を展開する。

各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

調査用紙の作成など研究を進める準備に取りかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・創作・考察に関する手法などを共有する。

評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容及び提出物の評価（60点）、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢（40点）という配点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】前期には、文献検索、手法の検討、報告の準備等、毎週、1時間程度の準備が必要である。後期には、各自のテーマに合わせた研究、調査を進め、報告準備を行うために、毎週、2時間程度の準備が必要である。

【事後学修】質疑応答の内容、各教員からの指摘をふまえ、各自の研究を発展させる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】【推薦書】【参考図書】その都度、推薦して提示する。

科目名	卒業研究演習		
担当教員名	阿子島 茂美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Pクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、児童教育学科の大学における学びの総まとめである卒業研究（4年次）の準備段階として、自らの興味関心をもつ研究分野について探求するプロセスを身につけることをねらいとしている。3年の演習（ゼミ）は4年次の卒業研究に連動するので、各指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方など学び理解する。

学修目標（＝到達目標）

卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法論を理解し、これに基づき4年次の卒業研究のテーマを具現化することができる。

内容

演習（ゼミ）では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に模索するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は少人数の討論形式で進めることを基本とする。担当教員の専門分野をもとに、学生が自由にゼミを選択する形式にしている。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みにむけて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

各自が興味・関心のあるテーマを決めて、発表、質疑応答、討論を行い、お互いのテーマを深めあうようにする。

担当教員からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

後期には、小学校の授業参観など学外授業の機会も設けることがある。卒業研究のテーマ選択及び決定に向けて以下のような活動を展開する。

各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

調査用紙の作成など研究を進める準備に取りかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・創作・考察に関する手法などを共有する。

評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容及び提出物の評価（60点）、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢（40点）という配点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】前期には、文献検索、手法の検討、報告の準備等、毎週、1時間程度の準備が必要である。後期には、各自のテーマに合わせた研究、調査を進め、報告準備を行うために、毎週、2時間程度の準備が必要である。

【事後学修】質疑応答の内容、各教員からの指摘をふまえ、各自の研究を発展させる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】【推薦書】【参考図書】その都度、推薦して提示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	綾井 桜子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の大学における学びの総まとめとして 3年からの演習に引き続き自らの興味・関心 を持つ分野に関してテーマをしばり、一つの研究論文にしてまとめるものである。

科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や資料収集や文献収集を行い、 整理し、自分の考えを入れて一つの研究論文としてまとめる。他の受講生からの批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら、研究に取り組み進める。9月に途中経過報告。11月に維持原稿提出、12月に最終提出と段階的に進度の目安を持って進めていく。

学修目標 (= 到達目標)

自らが興味・関心をもったテーマについて一定枚数の研究論文にまとめる。

内容

卒業研究では、3年次の演習でテーマや研究の方向付けをしてきたことや自己の興味関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める過程では、卒業研究ゼミの他の受講者と途中経過を報告し合い、進度の確認や研究内容研究手法の理解共有を図り、進める。

前期は、テーマの確定と調査、研究方法の見通しを持つことを目指す。発表や質疑 応答を通して、より精度の高い研究になるような手だてをとる。後期は、教育実習やこれまで大学での学びを生かし、必要な文献収集、調査等を継続しながら研究をまとめる。

主な取り組み内容

- ・ テーマ (研究題目) の決定
- ・ 先行研究の収集
- ・ 各種調査の計画実施 (アンケート調査、聞き取り調査、現地調査等)
- ・ 作品や模型などの設計、制作
- ・ 教育実践への活用の考察
- ・ 研究全体の考察を考え、内容の決定
- ・ 研究論文中の図表の作成及び論文の執筆
- ・ 卒業論文の全体的形式を整える。

評価

卒業研究 (提出された卒業論文) (70点) を評価対象とし、特に学生自身の取り組みや自己の考えが十分に表現されていることを重視する。研究テーマに取り組む姿勢 (30点) などを含めて総合的に判断する。 60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】文献にあたり、研究を深める。

【事後学修】必要に応じて、実地検証を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

【推薦書】その都度必要に応じて指示する。

【参考図書】その都度必要に応じて指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	清水 玲子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の大学における学びの総まとめとして 3年からの演習に引き続き自らの興味・関心 を持つ分野に関してテーマをしばり、一つの研究論文にしてまとめるものである。

科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や資料収集や文献収集を行い、 整理し、自分の考えを入れて一つの研究論文としてまとめる。他の受講生からの批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら、研究に取り組み進める。9月に途中経過報告。11月に維持原稿提出、12月に最終提出と段階的に進度の目安を持って進めていく。

学修目標 (= 到達目標)

自らが興味・関心をもったテーマについて一定枚数の研究論文にまとめる。

内容

卒業研究では、3年次の演習でテーマや研究の方向付けをしてきたことや自己の興味関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める過程では、卒業研究ゼミの他の受講者と途中経過を報告し合い、進度の確認や研究内容研究手法の理解共有を図り、進める。

前期は、テーマの確定と調査、研究方法の見直しを持つことを目指す。発表や質疑 応答を通して、より精度の高い研究になるような手だてをとる。後期は、教育実習やこれまで大学での学びを生かし、必要な文献収集、調査等を継続しながら研究をまとめる。

主な取り組み内容

- ・ テーマ (研究題目) の決定
- ・ 先行研究の収集
- ・ 各種調査の計画実施 (アンケート調査、聞き取り調査、現地調査等)
- ・ 作品や模型などの設計、制作
- ・ 教育実践への活用の考察
- ・ 研究全体の考察を考え、内容の決定
- ・ 研究論文中の図表の作成及び論文の執筆
- ・ 卒業論文の全体的形式を整える。

評価

卒業研究 (提出された卒業論文) (70点) を評価対象とし、特に学生自身の取り組みや自己の考えが十分に表現されていることを重視する。研究テーマに取り組む姿勢 (30点) などを含めて総合的に判断する。 60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】文献にあたり、研究を深める。

【事後学修】必要に応じて、実地検証を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

【推薦書】その都度必要に応じて指示する。

【参考図書】その都度必要に応じて指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	岡上 直子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Cクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の大学における学びの総まとめとして 3年からの演習に引き続き自らの興味・関心 を持つ分野に関してテーマをしばり、一つの研究論文にしてまとめるものである。

科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や資料収集や文献収集を行い、 整理し、自分の考えを入れて一つの研究論文としてまとめる。他の受講生からの批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら、研究に取り組み進める。9月に途中経過報告。11月に維持原稿提出、12月に最終提出と段階的に進度の目安を持って進めていく。

学修目標 (= 到達目標)

自らが興味・関心をもったテーマについて一定枚数の研究論文にまとめる。

内容

卒業研究では、3年次の演習でテーマや研究の方向付けをしてきたことや自己の興味関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める過程では、卒業研究ゼミの他の受講者と途中経過を報告し合い、進度の確認や研究内容研究手法の理解共有を図り、進める。

前期は、テーマの確定と調査、研究方法の見通しを持つことを目指す。発表や質疑 応答を通して、より精度の高い研究になるような手だてをとる。後期は、教育実習やこれまで大学での学びを生かし、必要な文献収集、調査等を継続しながら研究をまとめる。

主な取り組み内容

- ・ テーマ (研究題目) の決定
- ・ 先行研究の収集
- ・ 各種調査の計画実施 (アンケート調査、聞き取り調査、現地調査等)
- ・ 作品や模型などの設計、制作
- ・ 教育実践への活用の考察
- ・ 研究全体の考察を考え、内容の決定
- ・ 研究論文中の図表の作成及び論文の執筆
- ・ 卒業論文の全体的形式を整える。

評価

卒業研究 (提出された卒業論文) (70点) を評価対象とし、特に学生自身の取り組みや自己の考えが十分に表現されていることを重視する。研究テーマに取り組む姿勢 (30点) などを含めて総合的に判断する。 60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】文献にあたり、研究を深める。

【事後学修】必要に応じて、実地検証を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

【推薦書】その都度必要に応じて指示する。

【参考図書】その都度必要に応じて指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	山本 悟		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Dクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の大学における学びの総まとめとして 3年からの演習に引き続き自らの興味・関心 を持つ分野に関してテーマをしばり、一つの研究論文にしてまとめるものである。

科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や資料収集や文献収集を行い、 整理し、自分の考えを入れて一つの研究論文としてまとめる。他の受講生からの批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら、研究に取り組み進める。9月に途中経過報告。11月に維持原稿提出、12月に最終提出と段階的に進度の目安を持って進めていく。

学修目標 (= 到達目標)

自らが興味・関心をもったテーマについて一定枚数の研究論文にまとめる。

内容

卒業研究では、3年次の演習でテーマや研究の方向付けをしてきたことや自己の興味関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める過程では、卒業研究ゼミの他の受講者と途中経過を報告し合い、進度の確認や研究内容研究手法の理解共有を図り、進める。

前期は、テーマの確定と調査、研究方法の見通しを持つことを目指す。発表や質疑 応答を通して、より精度の高い研究になるような手だてをとる。後期は、教育実習やこれまで大学での学びを生かし、必要な文献収集、調査等を継続しながら研究をまとめる。

主な取り組み内容

- ・ テーマ (研究題目) の決定
- ・ 先行研究の収集
- ・ 各種調査の計画実施 (アンケート調査、聞き取り調査、現地調査等)
- ・ 作品や模型などの設計、制作
- ・ 教育実践への活用の考察
- ・ 研究全体の考察を考え、内容の決定
- ・ 研究論文中の図表の作成及び論文の執筆
- ・ 卒業論文の全体的形式を整える。

評価

卒業研究 (提出された卒業論文) (70点) を評価対象とし、特に学生自身の取り組みや自己の考えが十分に表現されていることを重視する。研究テーマに取り組む姿勢 (30点) などを含めて総合的に判断する。 60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】文献にあたり、研究を深める。

【事後学修】必要に応じて、実地検証を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

【推薦書】その都度必要に応じて指示する。

【参考図書】その都度必要に応じて指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	津吹 卓		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Eクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の大学における学びの総まとめとして 3年からの演習に引き続き自らの興味・関心 を持つ分野に関してテーマをしばり、一つの研究論文にしてまとめるものである。

科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や資料収集や文献収集を行い、 整理し、自分の考えを入れて一つの研究論文としてまとめる。他の受講生からの批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら、研究に取り組み進める。9月に途中経過報告。11月に維持原稿提出、12月に最終提出と段階的に進度の目安を持って進めていく。

学修目標 (= 到達目標)

自らが興味・関心をもったテーマについて一定枚数の研究論文にまとめる。

内容

卒業研究では、3年次の演習でテーマや研究の方向付けをしてきたことや自己の興味関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める過程では、卒業研究ゼミの他の受講者と途中経過を報告し合い、進度の確認や研究内容研究手法の理解共有を図り、進める。

前期は、テーマの確定と調査、研究方法の見通しを持つことを目指す。発表や質疑 応答を通して、より精度の高い研究になるような手だてをとる。後期は、教育実習やこれまで大学での学びを生かし、必要な文献収集、調査等を継続しながら研究をまとめる。

主な取り組み内容

- ・ テーマ (研究題目) の決定
- ・ 先行研究の収集
- ・ 各種調査の計画実施 (アンケート調査、聞き取り調査、現地調査等)
- ・ 作品や模型などの設計、制作
- ・ 教育実践への活用の考察
- ・ 研究全体の考察を考え、内容の決定
- ・ 研究論文中の図表の作成及び論文の執筆
- ・ 卒業論文の全体的形式を整える。

評価

卒業研究 (提出された卒業論文) (70点) を評価対象とし、特に学生自身の取り組みや自己の考えが十分に表現されていることを重視する。研究テーマに取り組む姿勢 (30点) などを含めて総合的に判断する。 60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】文献にあたり、研究を深める。

【事後学修】必要に応じて、実地検証を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

【推薦書】その都度必要に応じて指示する。

【参考図書】その都度必要に応じて指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	増田 吉史		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Fクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の大学における学びの総まとめとして 3年からの演習に引き続き自らの興味・関心 を持つ分野に関してテーマをしばり、一つの研究論文にしてまとめるものである。

科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や資料収集や文献収集を行い、 整理し、自分の考えを入れて一つの研究論文としてまとめる。他の受講生からの批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら、研究に取り組み進める。9月に途中経過報告。11月に維持原稿提出、12月に最終提出と段階的に進度の目安を持って進めていく。

学修目標 (= 到達目標)

自らが興味・関心をもったテーマについて一定枚数の研究論文にまとめる。

内容

卒業研究では、3年次の演習でテーマや研究の方向付けをしてきたことや自己の興味関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める過程では、卒業研究ゼミの他の受講者と途中経過を報告し合い、進度の確認や研究内容研究手法の理解共有を図り、進める。

前期は、テーマの確定と調査、研究方法の見直しを持つことを目指す。発表や質疑 応答を通して、より精度の高い研究になるような手だてをとる。後期は、教育実習やこれまで大学での学びを生かし、必要な文献収集、調査等を継続しながら研究をまとめる。

主な取り組み内容

- ・ テーマ (研究題目) の決定
- ・ 先行研究の収集
- ・ 各種調査の計画実施 (アンケート調査、聞き取り調査、現地調査等)
- ・ 作品や模型などの設計、制作
- ・ 教育実践への活用の考察
- ・ 研究全体の考察を考え、内容の決定
- ・ 研究論文中の図表の作成及び論文の執筆
- ・ 卒業論文の全体的形式を整える。

評価

卒業研究 (提出された卒業論文) (70点) を評価対象とし、特に学生自身の取り組みや自己の考えが十分に表現されていることを重視する。研究テーマに取り組む姿勢 (30点) などを含めて総合的に判断する。 60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】文献にあたり、研究を深める。

【事後学修】必要に応じて、実地検証を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

【推薦書】その都度必要に応じて指示する。

【参考図書】その都度必要に応じて指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	狩野 浩二		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Gクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の大学における学びの総まとめとして 3年からの演習に引き続き自らの興味・関心 を持つ分野に関してテーマをしばり、一つの研究論文にしてまとめるものである。

科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や資料収集や文献収集を行い、 整理し、自分の考えを入れて一つの研究論文としてまとめる。他の受講生からの批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら、研究に取り組み進める。9月に途中経過報告。11月に維持原稿提出、12月に最終提出と段階的に進度の目安を持って進めていく。

学修目標 (= 到達目標)

自らが興味・関心をもったテーマについて一定枚数の研究論文にまとめる。

内容

卒業研究では、3年次の演習でテーマや研究の方向付けをしてきたことや自己の興味関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める過程では、卒業研究ゼミの他の受講者と途中経過を報告し合い、進度の確認や研究内容研究手法の理解共有を図り、進める。

前期は、テーマの確定と調査、研究方法の見直しを持つことを目指す。発表や質疑 応答を通して、より精度の高い研究になるような手だてをとる。後期は、教育実習やこれまで大学での学びを生かし、必要な文献収集、調査等を継続しながら研究をまとめる。

主な取り組み内容

- ・ テーマ (研究題目) の決定
- ・ 先行研究の収集
- ・ 各種調査の計画実施 (アンケート調査、聞き取り調査、現地調査等)
- ・ 作品や模型などの設計、制作
- ・ 教育実践への活用の考察
- ・ 研究全体の考察を考え、内容の決定
- ・ 研究論文中の図表の作成及び論文の執筆
- ・ 卒業論文の全体的形式を整える。

評価

卒業研究 (提出された卒業論文) (70点) を評価対象とし、特に学生自身の取り組みや自己の考えが十分に表現されていることを重視する。研究テーマに取り組む姿勢 (30点) などを含めて総合的に判断する。 60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】文献にあたり、研究を深める。

【事後学修】必要に応じて、実地検証を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

【推薦書】その都度必要に応じて指示する。

【参考図書】その都度必要に応じて指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	富山 哲也		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Hクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の大学における学びの総まとめとして 3年からの演習に引き続き自らの興味・関心 を持つ分野に関してテーマをしばり、一つの研究論文にしてまとめるものである。

科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や資料収集や文献収集を行い、 整理し、自分の考えを入れて一つの研究論文としてまとめる。他の受講生からの批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら、研究に取り組み進める。9月に途中経過報告。11月に維持原稿提出、12月に最終提出と段階的に進度の目安を持って進めていく。

学修目標 (= 到達目標)

自らが興味・関心をもったテーマについて一定枚数の研究論文にまとめる。

内容

卒業研究では、3年次の演習でテーマや研究の方向付けをしてきたことや自己の興味関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める過程では、卒業研究ゼミの他の受講者と途中経過を報告し合い、進度の確認や研究内容研究手法の理解共有を図り、進める。

前期は、テーマの確定と調査、研究方法の見通しを持つことを目指す。発表や質疑 応答を通して、より精度の高い研究になるような手だてをとる。後期は、教育実習やこれまで大学での学びを生かし、必要な文献収集、調査等を継続しながら研究をまとめる。

主な取り組み内容

- ・ テーマ (研究題目) の決定
- ・ 先行研究の収集
- ・ 各種調査の計画実施 (アンケート調査、聞き取り調査、現地調査等)
- ・ 作品や模型などの設計、制作
- ・ 教育実践への活用の考察
- ・ 研究全体の考察を考え、内容の決定
- ・ 研究論文中の図表の作成及び論文の執筆
- ・ 卒業論文の全体的形式を整える。

評価

卒業研究 (提出された卒業論文) (70点) を評価対象とし、特に学生自身の取り組みや自己の考えが十分に表現されていることを重視する。研究テーマに取り組む姿勢 (30点) などを含めて総合的に判断する。 60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】文献にあたり、研究を深める。

【事後学修】必要に応じて、実地検証を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

【推薦書】その都度必要に応じて指示する。

【参考図書】その都度必要に応じて指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	日出間 均		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Jクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の大学における学びの総まとめとして 3年からの演習に引き続き自らの興味・関心 を持つ分野に関してテーマをしばり、一つの研究論文にしてまとめるものである。

科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や資料収集や文献収集を行い、 整理し、自分の考えを入れて一つの研究論文としてまとめる。他の受講生からの批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら、研究に取り組み進める。9月に途中経過報告。11月に維持原稿提出、12月に最終提出と段階的に進度の目安を持って進めていく。

学修目標 (= 到達目標)

自らが興味・関心をもったテーマについて一定枚数の研究論文にまとめる。

内容

卒業研究では、3年次の演習でテーマや研究の方向付けをしてきたことや自己の興味関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める過程では、卒業研究ゼミの他の受講者と途中経過を報告し合い、進度の確認や研究内容研究手法の理解共有を図り、進める。

前期は、テーマの確定と調査、研究方法の見通しを持つことを目指す。発表や質疑 応答を通して、より精度の高い研究になるような手だてをとる。後期は、教育実習やこれまで大学での学びを生かし、必要な文献収集、調査等を継続しながら研究をまとめる。

主な取り組み内容

- ・ テーマ (研究題目) の決定
- ・ 先行研究の収集
- ・ 各種調査の計画実施 (アンケート調査、聞き取り調査、現地調査等)
- ・ 作品や模型などの設計、制作
- ・ 教育実践への活用の考察
- ・ 研究全体の考察を考え、内容の決定
- ・ 研究論文中の図表の作成及び論文の執筆
- ・ 卒業論文の全体的形式を整える。

評価

卒業研究 (提出された卒業論文) (70点) を評価対象とし、特に学生自身の取り組みや自己の考えが十分に表現されていることを重視する。研究テーマに取り組む姿勢 (30点) などを含めて総合的に判断する。 60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】文献にあたり、研究を深める。

【事後学修】必要に応じて、実地検証を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

【推薦書】その都度必要に応じて指示する。

【参考図書】その都度必要に応じて指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	星野 敦子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Kクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の大学における学びの総まとめとして 3年からの演習に引き続き自らの興味・関心 を持つ分野に関してテーマをしばり、一つの研究論文にしてまとめるものである。

科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や資料収集や文献収集を行い、 整理し、自分の考えを入れて一つの研究論文としてまとめる。他の受講生からの批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら、研究に取り組み進める。9月に途中経過報告。11月に維持原稿提出、12月に最終提出と段階的に進度の目安を持って進めていく。

学修目標 (= 到達目標)

自らが興味・関心をもったテーマについて一定枚数の研究論文にまとめる。

内容

卒業研究では、3年次の演習でテーマや研究の方向付けをしてきたことや自己の興味関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める過程では、卒業研究ゼミの他の受講者と途中経過を報告し合い、進度の確認や研究内容研究手法の理解共有を図り、進める。

前期は、テーマの確定と調査、研究方法の見通しを持つことを目指す。発表や質疑 応答を通して、より精度の高い研究になるような手だてをとる。後期は、教育実習やこれまで大学での学びを生かし、必要な文献収集、調査等を継続しながら研究をまとめる。

主な取り組み内容

- ・ テーマ (研究題目) の決定
- ・ 先行研究の収集
- ・ 各種調査の計画実施 (アンケート調査、聞き取り調査、現地調査等)
- ・ 作品や模型などの設計、制作
- ・ 教育実践への活用の考察
- ・ 研究全体の考察を考え、内容の決定
- ・ 研究論文中の図表の作成及び論文の執筆
- ・ 卒業論文の全体的形式を整える。

評価

卒業研究 (提出された卒業論文) (70点) を評価対象とし、特に学生自身の取り組みや自己の考えが十分に表現されていることを重視する。研究テーマに取り組む姿勢 (30点) などを含めて総合的に判断する。 60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】文献にあたり、研究を深める。

【事後学修】必要に応じて、実地検証を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

【推薦書】その都度必要に応じて指示する。

【参考図書】その都度必要に応じて指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	阿子島 茂美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Lクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の大学における学びの総まとめとして 3年からの演習に引き続き自らの興味・関心 を持つ分野に関してテーマをしばり、一つの研究論文にしてまとめるものである。

科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や資料収集や文献収集を行い、 整理し、自分の考えを入れて一つの研究論文としてまとめる。他の受講生からの批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら、研究に取り組み進める。9月に途中経過報告。11月に維持原稿提出、12月に最終提出と段階的に進度の目安を持って進めていく。

学修目標 (= 到達目標)

自らが興味・関心をもったテーマについて一定枚数の研究論文にまとめる。

内容

卒業研究では、3年次の演習でテーマや研究の方向付けをしてきたことや自己の興味関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める過程では、卒業研究ゼミの他の受講者と途中経過を報告し合い、進度の確認や研究内容研究手法の理解共有を図り、進める。

前期は、テーマの確定と調査、研究方法の見通しを持つことを目指す。発表や質疑 応答を通して、より精度の高い研究になるような手だてをとる。後期は、教育実習やこれまで大学での学びを生かし、必要な文献収集、調査等を継続しながら研究をまとめる。

主な取り組み内容

- ・ テーマ (研究題目) の決定
- ・ 先行研究の収集
- ・ 各種調査の計画実施 (アンケート調査、聞き取り調査、現地調査等)
- ・ 作品や模型などの設計、制作
- ・ 教育実践への活用の考察
- ・ 研究全体の考察を考え、内容の決定
- ・ 研究論文中図表の作成及び論文の執筆
- ・ 卒業論文の全体的形式を整える。

評価

卒業研究 (提出された卒業論文) (70点) を評価対象とし、特に学生自身の取り組みや自己の考えが十分に表現されていることを重視する。研究テーマに取り組む姿勢 (30点) などを含めて総合的に判断する。 60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】文献にあたり、研究を深める。

【事後学修】必要に応じて、実地検証を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

【推薦書】その都度必要に応じて指示する。

【参考図書】その都度必要に応じて指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	吉川 知夫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Mクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の大学における学びの総まとめとして 3年からの演習に引き続き自らの興味・関心 を持つ分野に関してテーマをしばり、一つの研究論文にしてまとめるものである。

科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や資料収集や文献収集を行い、 整理し、自分の考えを入れて一つの研究論文としてまとめる。他の受講生からの批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら、研究に取り組み進める。9月に途中経過報告。11月に維持原稿提出、12月に最終提出と段階的に進度の目安を持って進めていく。

学修目標 (= 到達目標)

自らが興味・関心をもったテーマについて一定枚数の研究論文にまとめる。

内容

卒業研究では、3年次の演習でテーマや研究の方向付けをしてきたことや自己の興味関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める過程では、卒業研究ゼミの他の受講者と途中経過を報告し合い、進度の確認や研究内容研究手法の理解共有を図り、進める。

前期は、テーマの確定と調査、研究方法の見通しを持つことを目指す。発表や質疑 応答を通して、より精度の高い研究になるような手だてをとる。後期は、教育実習やこれまで大学での学びを生かし、必要な文献収集、調査等を継続しながら研究をまとめる。

主な取り組み内容

- ・ テーマ (研究題目) の決定
- ・ 先行研究の収集
- ・ 各種調査の計画実施 (アンケート調査、聞き取り調査、現地調査等)
- ・ 作品や模型などの設計、制作
- ・ 教育実践への活用の考察
- ・ 研究全体の考察を考え、内容の決定
- ・ 研究論文中の図表の作成及び論文の執筆
- ・ 卒業論文の全体的形式を整える。

評価

卒業研究 (提出された卒業論文) (70点) を評価対象とし、特に学生自身の取り組みや自己の考えが十分に表現されていることを重視する。研究テーマに取り組む姿勢 (30点) などを含めて総合的に判断する。 60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】文献にあたり、研究を深める。

【事後学修】必要に応じて、実地検証を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

【推薦書】その都度必要に応じて指示する。

【参考図書】その都度必要に応じて指示する。